

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(12月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2024年1-11月) 2
- ◆韓国工作機械主要統計(2024年10月) 3
- ◆中国の工作機械輸入動向 6
- ◆インドの工作機械輸入動向 6

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国: PMI 50.9%(1月) 7
- ◆中国製造業 PMI 49.1%(1月) 8
- ◆海外業界動向: メキシコ、ブラジル 8
- ◆海外業界動向: 東南アジア 10
- ◆イタリア工作機械受注:
2024年第4四半期は増加傾向 13
- ◆中国主要半導体、自動化、
リチウム電池メーカー2024年業績速報 14
- ◆米国通商動向 18

3. 工作機械関連企業動向

- ◆DNソリューションズ、富川デジヤン産業団地に
工作機械先端研究開発センターを構築 21
- ◆昌原市議会、現代ウィア工作機械事業部売却の
影響について討論会 22
- ◆Mitsubishi Electric India、
コード不要のFAデジタルソリューションを
推進するためItanta Analyticsに投資 23
- ◆Mikron、2024年純売上高3億7,410万スイスフラン
と発表 23

4. 展示会情報

- ◆IMTEX2025 結果報告 24

5. その他

- ◆ユーザー産業情報 26

6. 日工会外需状況(1月) 36

お知らせ

- SelectUSA Investment Summit 38

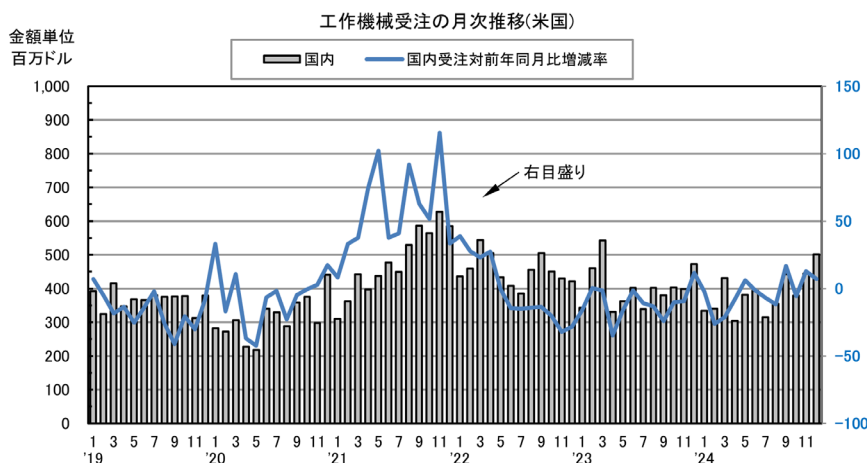
1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計(12月)

AMT(米国製造技術工業協会)発表の受注統計(USMTO)によると、2024年12月の米国切削型工作機械受注は、5億121万ドルで前月比13.2%増、前年同月比7.0%増となった。

米国機械受注は3年連続で減少している。しかし、2024年の受注は1998年までの年間平均を9.7%上回っており、こうした減少にもかかわらず機械の需要が堅調であることを示している。2024年は出だしが緩やかであったが、9月のIMTS(米国国際製造技術見本市)以降、製造技術の受注は高水準を維持した。9月の受注はIMTSの通常の前年に比べると控えめであったが、展示会後に通常見られる需要の落ち込みは起こらず、2024年は好調な状態で終わった。

2024年の全受注の約40%は、9月のIMTS以降に発注された。これは、2025年に向けて機械の需要が持続していることを示している。2025年1月まで、引き合いは高水準を維持したが、最初の引き合いから発注までの時間は通常よりも長くなった。AMTの毎年恒例の冬季経済フォーラムで発表された予測では、地政学のおよび貿易上の混乱が最小限であると仮定すると、2025年に向けて明るい兆しが示されている。(USMTOレポート 2025年2月10日付)



◆米国工作機械受注統計(地域別)

(金額単位：百万ドル)

地域別		2024年12月 (P)	2024年11月	前月比 (%)	前年同月	前年同月比 (%)	2024年累計 (P)	2023年累計 (R)	前年同期比 (%)
全 米	切削型	501.21	442.82	13.2	468.58	7.0	4613.65	4,781.26	-3.5
	成形型	12.59	3.87	225.2	18.73	-32.8	84.06	103.45	-18.7
	計	513.80	446.69	15.0	487.32	5.4	4697.72	4,884.71	-3.8
北 東 部	切削型	102.14	86.56	18.0	90.40	13.0	814.82	935.72	-12.9
	成形型	D	D	*	D	809.9	9.18	13.29	-30.9
	計	D	D	21.3	D	16.1	824.00	949.01	-13.2
南 東 部	切削型	80.32	51.98	54.5	68.01	18.1	625.36	627.36	-0.3
	成形型	D	D	-65.7	D	D	9.10	18.81	-51.6
	計	D	D	51.5	D	18.8	634.47	646.17	-1.8
北 中 東 部	切削型	96.71	109.76	-11.9	98.49	-1.8	1,075.61	1,131.92	-5.0
	成形型	6.54	D	D	D	D	26.32	36.72	-28.3
	計	103.25	D	D	D	D	1,101.93	1,168.64	-5.7
北 中 西 部	切削型	79.16	75.29	5.1	87.52	-9.6	850.34	877.70	-3.1
	成形型	D	1.29	D	1.93	D	27.61	19.10	44.5
	計	D	76.58	D	89.45	D	877.95	896.80	-2.1
南 中 部	切削型	48.54	38.30	26.7	35.69	36.0	408.87	474.62	-13.9
	成形型	D	D	139.2	D	-58.5	4.20	8.76	-52.0
	計	D	D	27.6	D	31.7	413.07	483.38	-14.5
西 部	切削型	94.33	80.93	16.6	88.47	6.6	838.65	733.94	14.3
	成形型	D	D	-67.4	D	D	7.64	6.78	12.8
	計	D	D	16.0	D	6.8	846.30	740.71	14.3

P：暫定値 R：改定値

四捨五入により合計値及び%は一致しない場合がある

*1000%以上

D：ドル建て価格非公開

◆台湾工作機械輸出入統計(2024年1～11月)

台湾工作機械輸出入統計(2024年1～11月)

(単位：千USドル)

機 種 名	輸 出			輸 入		
	2023.1-11	2024.1-11	前年比(%)	2023.1-11	2024.1-11	前年比(%)
放電加工機・レーザ加工機	153,370	141,864	-7.5	242,776	203,278	-16.3
マシニングセンタ	807,379	600,408	-25.6	60,443	63,893	5.7
旋盤	597,638	485,315	-18.8	67,441	58,446	-13.3
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	146,155	141,380	-3.3	21,694	11,918	-45.1
研削盤	197,658	196,252	-0.7	39,867	43,836	10.0
歯切り盤・歯車機械	125,668	104,123	-17.1	27,001	24,298	-10.0
切 削 型 合 計	2,027,868	1,669,342	-17.7	459,222	405,669	-11.7

出所：TAMI

台湾工作機械国別輸出入統計(2024年1-11月)

(金額単位：千USドル)

輸 出						輸 入					
順位	国 別	2023.1-11	2024.1-11	割合(%)	前年比(%)	順位	国 別	2023.1-11	2024.1-11	割合(%)	前年比(%)
1	中 国	642,510	563,502	28.1	-12.3	1	日 本	281,206	191,241	39.9	-32.0
2	米 国	342,957	309,591	15.5	-9.7	2	中 国	74,543	99,416	20.7	33.4
3	ト ル コ	273,968	183,596	9.2	-33.0	3	韓 国	15,218	43,047	9.0	182.9
4	イ ン ド	107,197	128,392	6.4	19.8	4	ド イ ツ	43,526	39,720	8.3	-8.7
5	ベ ト ナ ム	67,458	77,084	3.8	14.3	5	ス イ ス	30,144	28,546	6.0	-5.3
6	タ イ	62,840	67,070	3.3	6.7	6	タ イ	27,306	15,573	3.2	-43.0
7	ド イ ツ	72,304	53,828	2.7	-25.6	7	イ タ リ ア	19,046	14,196	3.0	-25.5
8	オ ラ ン ダ	79,635	52,167	2.6	-34.5	8	米 国	15,210	12,603	2.6	-17.1
9	日 本	62,998	47,307	2.4	-24.9	9	台 湾	9,385	11,669	2.4	24.3
10	韓 国	35,728	45,537	2.3	27.5	10	スウェーデン	91	5,169	1.1	5580.2
11	イ タ リ ア	68,603	39,451	2.0	-42.5		そ の 他	35,924	17,995	3.8	-49.9
12	英 国	35,992	33,643	1.7	-6.5						
13	メ キ シ コ	44,295	30,994	1.5	-30.0						
14	マレーシア	42,492	30,298	1.5	-28.7						
15	インドネシア	33,653	29,842	1.5	-11.3						
16	ブラジル	26,981	25,649	1.3	-4.9						
17	フ ラ ン ス	21,803	22,332	1.1	2.4						
18	オーストラリア	28,433	22,060	1.1	-22.4						
19	カ ナ ダ	18,995	21,391	1.1	12.6						
20	ポーランド	19,652	15,045	0.8	-23.4						
21	アラブ首長国	12,768	12,903	0.6	1.1						
22	ベルギー	28,882	12,784	0.6	-55.7						
23	ス ペ イ ン	16,461	12,414	0.6	-24.6						
24	ロ シ ア	42,357	10,595	0.5	-75.0						
25	シンガポール	11,057	9,633	0.5	-12.9						
26	南アフリカ	11,637	8,611	0.4	-26.0						
27	ス イ ス	23,470	8,485	0.4	-63.8						
28	フィリピン	12,825	7,719	0.4	-39.8						
29	チ リ	4,563	7,353	0.4	61.1						
30	オーストリア	7,659	7,162	0.4	-6.5						
	そ の 他	130,288	106,942	5.3	-17.9						
	合 計	2,390,461	2,003,380	100.0	-16.2		合 計	551,599	479,175	100.0	-13.1

出所：海関進出口統計月報

◆韓国工作機械主要統計(2024年11月)

○業種別受注(2024.11) 韓国工作機械受注(2024年11月) (単位：百万ウォン)

需要業種	2024.10	2024.11	前月比(%)	2023.1-11	2024.1-11	前年同期比(%)
鉄鋼・非鉄金属	4,286	1,150	-73.2	36,164	38,218	5.7
金属製品	786	140	-82.2	33,208	8,813	-73.5
一般機械	10,396	7,204	-30.7	211,706	249,770	18.0
電気機械	3,316	5,309	60.1	97,275	108,661	11.7
自動車	40,826	19,281	-52.8	380,261	342,117	-10.0
造船・輸送用機械	6,327	3,119	-50.7	55,707	74,953	34.5
精密機械	3,294	5,282	60.4	50,459	46,317	-8.2
その他製造業	3,109	1,885	-39.4	64,514	49,127	-23.9
官公需・学校	352	789	124.1	7,228	4,254	-41.1
商社・代理店	3,502	2,769	-20.9	49,605	75,103	51.4
その他	902	832	-7.8	1,600	19,290	1,105.6
内 需 合 計	77,096	47,760	-38.1	987,727	1,016,623	2.9
外 需	141,596	145,067	2.5	1,771,404	1,691,686	-4.5
総 合 計	218,692	192,827	-11.8	2,759,131	2,708,309	-1.8

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別受注(2024.11)

(単位：百万ウォン)

機 種	2024.10	2024.11	前月比(%)	2023.1-11	2024.1-11	前年同期比(%)
N C 小 合 計	215,067	188,124	-12.5	2,702,284	2,651,440	-1.9
NC旋盤	100,879	95,891	-4.9	1,309,179	1,279,676	-2.3
マシニングセンタ	70,822	64,791	-8.5	993,817	946,064	-4.8
NCフライス盤	170	0	-	951	5,045	430.5
NC専用機	26,300	16,113	-38.7	233,331	236,073	1.2
NC中ぐり盤	6,829	5,253	-23.1	56,623	74,319	31.3
NCその他の工作機械	7,611	3,913	-48.6	63,826	76,078	19.2
非 N C 小 合 計	2,794	3,499	25.2	33,523	36,093	7.7
旋盤	923	1,021	10.6	9,203	11,758	27.8
フライス盤	997	1,388	39.2	12,547	11,495	-8.4
ボール盤	0	0	-	322	345	7.1
研削盤	874	1,010	15.6	11,091	11,866	7.0
専用機	0	0	-	0	308	-
その他の工作機械	0	0	-	0	20	-
金 属 切 削 型	217,861	191,623	-12.0	2,735,807	2,687,533	-1.8
金 属 成 形 型	831	1,204	44.9	23,324	20,776	-10.9
総 合 計	218,692	192,827	-11.8	2,759,131	2,708,309	-1.8

出所：韓国工作機械産業協会

韓国工作機械生産&出荷統計(2024年11月)

○生産(2024.11)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2024.10	2024.11	前月比(%)	2023.1-11	2024.1-11	前年同期比(%)
N C 小 合 計	176,667	180,777	2.3	2,177,250	2,105,810	-3.3
NC旋盤	83,424	79,540	-4.7	1,073,128	1,007,711	-6.1
マシニングセンタ	64,419	69,639	8.1	772,607	724,065	-6.3
NCフライス盤	92	400	334.8	762	2,429	218.8
NC専用機	17,869	17,034	-4.7	178,344	222,559	24.8
NC中ぐり盤	1,842	5,848	217.5	42,372	50,458	19.1
NCその他	7,672	5,124	-33.2	62,175	69,078	11.1
非 N C 小 合 計	2,794	2,753	-1.5	35,524	37,064	4.3
旋盤	839	119	-85.8	12,879	10,887	-15.5
フライス盤	645	834	29.3	10,913	9,404	-13.8
ボール盤	335	212	-36.7	2,860	4,067	42.2
研削盤	975	519	-46.8	5,547	7,979	43.8
専用機	-	989	-	2,965	4,426	49.3
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	179,461	183,530	2.3	2,212,774	2,142,874	-3.2
金 属 成 形 型 合 計	14,685	13,273	-9.6	170,447	169,278	-0.7
総 合 計	194,146	196,803	1.4	2,383,221	2,312,152	-3.0

出所：韓国工作機械産業協会

○出荷(2024.11)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2024.10	2024.11	前月比(%)	2023.1-11	2024.1-11	前年同期比(%)
N C 小 合 計	228,766	217,246	-5.0	2,757,773	2,681,711	-2.8
NC旋盤	108,241	101,442	-6.3	1,406,044	1,287,944	-8.4
マシニングセンタ	86,440	83,841	-3.0	1,007,147	999,163	-0.8
NCフライス盤	92	400	334.8	762	2,429	218.8
NC専用機	17,869	17,034	-4.7	178,133	222,561	24.9
NC中ぐり盤	6,219	5,375	-13.6	54,124	71,228	31.6
NCその他	8,056	5,962	-26.0	63,701	68,377	7.3
非 N C 小 合 計	3,845	3,875	0.8	38,075	43,902	15.3
旋盤	1,551	1,120	-27.8	13,605	15,508	14.0
フライス盤	673	874	29.9	11,128	9,542	-14.3
ボール盤	348	264	-24.1	3,593	4,805	33.7
研削盤	1,273	548	-57.0	6,222	9,296	49.4
専用機	-	989	-	2,965	4,426	49.3
その他	0	0	-	17	24	41.2
金 属 切 削 型 合 計	232,611	221,121	-4.9	2,795,848	2,425,613	-2.5
金 属 成 形 型 合 計	1,324	1,185	-10.5	19,991	17,679	-11.6
総 合 計	233,935	222,306	-5.0	2,815,839	2,743,292	-2.6

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別輸出(2024.11) 韓国工作機械輸出統計(2024年11月) (単位：千USドル)

機種別	2024.10	2024.11	前月比(%)	2023.1-11	2024.1-11	前年同期比(%)
N C 小 合 計	142,286	139,050	-2.3	1,790,249	1,634,571	-8.7
NC旋盤	63,441	60,070	-5.3	891,092	764,481	-14.2
マシニングセンタ	33,367	45,252	35.6	513,024	441,995	-13.8
NCフライス盤	2,866	734	-74.4	15,108	16,216	7.3
NC専用機	942	55	-94.2	13,052	36,613	180.5
NC中ぐり盤	4,617	1,980	-57.1	32,492	51,453	58.4
レーザ加工機	29,142	22,312	-23.4	199,943	242,797	21.4
NCその他	3,650	5,009	37.2	45,306	37,772	-16.6
非 N C 小 合 計	12,801	9,523	-25.6	98,539	127,641	29.5
旋盤	367	512	39.5	5,374	9,123	69.8
フライス盤	1,140	881	-22.7	11,583	11,269	-2.7
ボール盤	599	79	-86.8	4,950	4,641	-6.2
研削盤	3,866	2,741	-29.1	15,236	14,657	-3.8
専用機	0	132	-	2,786	236	-91.5
その他	4,427	3,834	-13.4	37,722	40,774	8.1
金 属 切 削 型 合 計	155,087	148,573	-4.2	1,888,788	1,762,212	-6.7
金 属 成 形 型 合 計	22,314	50,026	124.2	721,790	498,655	-30.9
総 合 計	177,401	198,598	11.9	2,610,578	2,260,867	-13.4

出所：韓国通関局

○仕向け国別輸出(2024.1-11) (単位：千USドル)

機種別	アジア	中国	インド	アメリカ	欧州	ドイツ	トルコ
NC小合計	446,169	141,122	91,491	486,432	497,840	153,805	102,758
NC旋盤	142,946	56,064	43,192	211,817	328,978	104,325	73,849
マシニングセンタ	104,107	34,356	32,410	137,230	148,080	44,379	23,328
NCフライス盤	6,038	929	2,888	1,682	2,611	5	23
NC専用機	619	190	429	26,674	0	0	0
NC中ぐり盤	11,279	4,135	3,699	14,474	4,626	2	2,851
レーザ加工機	139,722	31,868	2,699	74,964	3,862	998	0
NCその他	13,593	2,130	763	17,098	2,922	2,188	0
非NC小合計	45,346	11,430	12,645	48,354	8,551	1,405	640
旋盤	2,367	41	188	1,550	312	94	79
フライス盤	3,713	1,100	659	2,708	1,607	78	0
ボール盤	3,169	367	914	232	50	16	0
研削盤	12,085	4,810	3,656	472	1,078	113	0
専用機	16	3	0	0	219	216	0
その他	14,143	4,036	1,756	15,428	1,880	119	501
金 属 切 削 型 合 計	491,515	152,552	104,136	534,786	506,391	155,210	103,398
金 属 成 形 型 合 計	187,724	45,383	58,333	118,291	114,013	10,231	17,350
総 合 計	679,239	197,935	162,469	653,077	620,404	165,441	120,748

出所：韓国通関局

○機種別輸入(2024.11) 韓国工作機械輸入統計(2024年11月) (単位：千USドル)

機 種 別	2024.10	2024.11	前月比(%)	2023.1-11	2024.1-11	前年同期比(%)
N C 小 合 計	43,715	49,922	14.2	574,431	561,715	-2.2
NC旋盤	3,221	7,350	128.2	87,060	71,409	-18.0
マシニングセンタ	10,909	13,000	19.2	121,369	33,271	9.8
NCフライス盤	395	1,087	175.0	9,260	12,937	39.7
NC専用機	0	3	-	1,373	2,167	57.8
NC中ぐり盤	181	248	37.2	10,570	5,853	-44.6
レーザ加工機	14,532	12,603	-13.3	210,451	196,990	-6.4
NCその他	2,083	1,931	-7.3	16,186	16,470	1.8
非 N C 小 合 計	5,585	8,252	47.8	80,835	82,983	2.7
旋盤	225	1,106	392.2	8,218	7,416	-9.8
フライス盤	164	122	-25.3	4,060	3,928	-3.3
ボール盤	384	294	-23.5	5,856	6,324	8.0
研削盤	1,324	2,657	100.7	13,690	15,678	14.5
専用機	0	37	-	1,327	5,034	279.4
その他	1,433	1,449	1.1	21,366	20,166	-5.6
金 属 切 削 型 合 計	49,300	58,174	18.0	655,266	644,698	-1.6
金 属 成 形 型 合 計	10,037	18,157	80.9	161,218	176,044	9.2
総 合 計	59,336	76,330	28.6	816,483	820,742	0.5

出所：韓国通関局

○輸入国別(2024.1-11)

(単位：千USドル)

機種別	アジア	日本	台湾	米国	欧州	ドイツ	イタリア
N C 小 合 計	399,731	161,953	31,996	22,512	135,143	82,057	15,642
NC旋盤	51,690	29,625	0	1,212	18,507	14,271	250
マシニングセンタ	97,745	60,687	25,586	3,474	32,052	30,204	701
NCフライス盤	6,104	1,534	395	62	6,770	1,741	615
NC専用機	843	712	0	839	482	482	0
NC中ぐり盤	1,582	1,297	0	17	4,253	2,469	123
レーザ加工機	168,004	27,356	565	3,955	24,876	13,529	4,779
NCその他	9,746	6,487	15	2,573	4,145	1,472	42
非 N C 小 合 計	57,616	26,552	7,969	2,868	21,904	6,285	1,455
旋盤	7,200	2,786	1,903	38	176	43	0
フライス盤	3,105	2,184	124	16	807	467	164
ボール盤	4,220	2,139	391	6	2,098	181	0
研削盤	14,041	8,270	1,894	380	1,256	260	60
専用機	224	178	0	377	4,433	0	0
その他	11,490	5,165	642	668	7,821	3,751	4
金 属 切 削 型	457,347	188,505	39,965	25,380	157,047	88,342	17,097
金 属 成 形 型	94,087	41,127	4,191	7,976	73,519	16,625	19,779
総 合 計	551,434	229,632	44,155	33,356	230,566	104,967	38,876

出所：韓国通関局

◆中国の工作機械輸入動向（12月）

2024年12月の工作機械輸入額は約4億9,466万ドル。

(単位：百万ドル)

	2024年					
	7月	8月	9月	10月	11月	12月
日 本	118.3	140.9	141.4	138.5	153.5	203.3
ド イ ツ	82.8	115.8	96.7	84.4	89.9	97.5
台 湾	39.1	42.4	41.8	39.6	44.4	51.4
シンガポール	4.4	4.3	10.9	4.3	5.5	26.9
韓 国	15.6	11.0	14.5	15.7	13.7	18.8
イ タ リ ア	15.9	9.2	15.4	17.2	18.3	22.6
ス イ ス	37.5	29.0	24.9	44.1	30.2	18.8
そ の 他	59.6	46.0	50.9	40.7	49.2	55.2
全 輸 入 額	373.1	398.7	396.6	384.5	404.6	494.7

出所：ジェトロ

◆インド工作機械輸入統計（11月）

2024年11月の工作機械輸入額は約1億2,178万ドル。

(単位：百万ドル)

	2024年					
	6月	7月	8月	9月	10月	11月
中 国	28.0	21.9	28.8	27.7	22.6	27.7
日 本	16.7	29.6	27.0	22.3	27.1	23.3
韓 国	6.5	9.9	7.0	11.5	8.7	17.1
ド イ ツ	17.9	20.5	19.3	20.0	20.1	13.7
イ タ リ ア	9.9	14.6	8.9	9.9	13.2	7.8
台 湾	7.1	12.0	8.0	9.6	6.1	5.4
タ イ	2.9	5.4	6.3	2.7	4.4	4.9
そ の 他	31.9	22.4	32.0	33.5	31.4	21.9
全 輸 入 額	120.9	136.4	137.4	137.2	133.6	121.8

出所：ジェトロ

2. 主要国・地域経済動向

◆米国：PMI 50.9%（1月）

米サプライ・マネジメント協会(ISM)の購買管理指数(PMI：製造業350社以上のアンケート調査に基づく月次景況指数)の2025年1月の調査結果について、ISMは次のようにコメントしている。1月の製造業の経済活動は26か月間連続縮小を経て拡大を記録した。

「1月の製造業PMI®は50.9%で、12月の季節調整済み49.2%より1.7%高い。2020年4月の1か月の縮小の後、経済全体は57か月連続で拡大を続けた。(一定期間の製造業PMI®が42.3%を超えると、一般的に経済全体が拡大していることを示す。)新規受注指数は7か月の縮小の後、3か月連続で拡大領域に入り、再び上昇して55.1%となり、12月の季節調整済み52.1%より3%高い。1月の生産指数(52.5%)は、12月の季節調整済み49.9%より2.6%高い。指数は8か月の縮小の後、拡大に転じた。」

「米国の製造業活動は、26か月連続の縮小の後、1月に拡大した。需要は明らかに改善し、生産は拡大し、投入は引き続き緩和中であった。需要の改善には、(1)新規受注指数がさらに拡大領域に転じたこと、(2)新規輸出受注指数が再び拡大に転じたこと、(3)受注残指数がわずかに減少し、引き続き縮小していること、(4)顧客在庫指数が「低すぎる」領域に留まっていることが含まれる。」

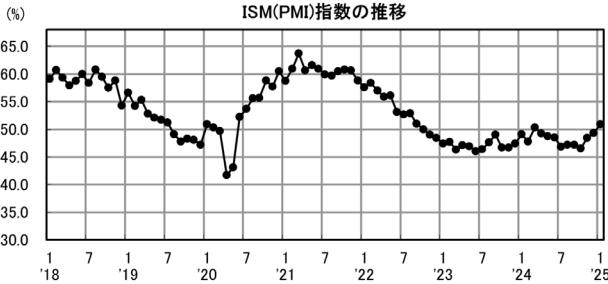
なお、1月の製造業の景況感について、対象18業種中8業種が「企業活動が増加した」と回答している。繊維機械、鉄鋼・非鉄鋼、石油&石炭製品、化学製品、機械、輸送機械、プラスチックおよびゴム製品、電気機器&部品。

ISMが発表した1月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。

項 目	2025年1月指数	2024年12月指数	備 考
ISM 指数(PMI)	50.9	49.2	前月比1.7ポイント増。PMIが48.7%を上回ると製造業の拡大を示唆。
新 規 受 注	55.1	52.1	前月比3.0ポイント増。拡大の基準は52.3である。9業種が増加を報告した。
生 産	52.5	49.9	前月比2.6ポイント増。拡大の基準は、52.2である。6業種が増加を報告。
雇 用	50.3	45.4	前月比4.9ポイント増。4業種が増加を報告した。
入 荷 遅 延	50.9	50.1	前月比0.8ポイント増。長期化の基準は、50以上。18業種中5業種が長期化を報告した。
在 庫	45.9	48.4	前月比2.5ポイント減。拡大の基準44.4ポイントを上回った。6業種が在庫増を報告した。
顧 客 在 庫	46.7	46.7	前月比0.0ポイント。5業種が増加を報告した。
仕 入 れ 価 格	54.9	52.5	前月比2.4ポイント増。11業種が増加を報告した。
受 注 残	44.9	45.9	前月比1.0ポイント減。5業種が増加を報告した。
輸 出 受 注	52.4	50.0	前月比2.4ポイント増。7業種が増加を報告。
原 材 料 輸 入	51.1	49.7	前月比1.4ポイント増。8業種が増加を報告。

※データは季節修正値

(ISM Manufacturing Report on Business 2025年1月1日付)



◆中国製造業 PMI 49.1%（1月）

1月の中国製造業購買担当者指数(PMI)は49.1%で、前月比1.0%ポイント低下し、製造業の低迷傾向を示唆した。

企業規模別に見ると、大企業、中堅企業、中小企業のPMIはそれぞれ49.9、49.5、46.5%で、前月比0.6、1.2、2.0%低下し、いずれも基準値を下回った。

製造業PMIを構成する5つのサブ指数のうち、サプライヤー納期は基準値を上回ったが、生産指数、新規受注指数、原材料在庫指数、雇用指数はいずれも基準値を下回った。

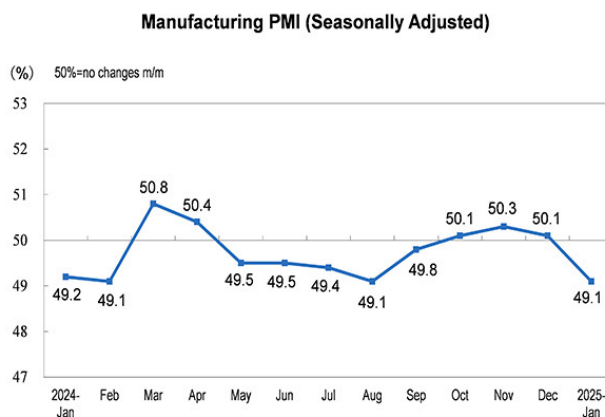
生産指数は49.8%で、前月比2.3%低下し、製造業の生産活動が減速していることが示された。

新規受注指数は49.2%で、前月比1.8%低下し、製造業市場の需要が減少していることが示された。

原材料在庫指数は47.7%で前月比0.6ポイント低下し、製造業の主要原材料の在庫が引き続き減少していることが示された。

雇用指数は48.1%で前月比横ばいで、製造業の雇用環境が安定していることが示された。

サプライヤー納期指数は50.3%で前月比0.6ポイント低下し、依然として基準値を上回っており、製造業の原材料サプライヤーの納期が短縮していることが示された。



(Bureau of Statistics of China 2025年1月28日付)

◆海外業界動向：メキシコ、ブラジル

ラテンアメリカにおける外国投資の最大の受益国であるブラジルとメキシコは、さまざまな産業が強さと回復力を示していることから、2025年には大きなチャンスとGDPの成長が見込まれている。業界情報やその他の豆知識については、以下をお読みください。

ブラジル

- ブラジルの乗用車、小型ユーティリティ車、トラック、バスなどの自動車生産は前年比10.8%増加し、年間9.7%の増加に貢献し、合計255万台となり、ブラジルは世界第8位の自動車生産国としての地位を取り戻すことができた。この成長は、信用の拡大、雇用と所得の増加、車両更新の増加、輸出の回復を反映しており、アルゼンチンとウルグアイへの出荷が他の地域の減少を相殺した。国内の自動車登録台数は14.1%増の264万台と、世界平均の2%を大きく上回り、新車と中古車の合計販売台数は過去最高の1,440万台に達した。輸入台数も33%増の46万6,500台となり、特に中国からの電動車の流入が目立った。
- トラック生産は2024年に力強い回復を見せた。昨年1月から12月までに14万1,252台が製造され、2023年比40.5%増となった。注目すべきは大型セグメントが44%増、中型セグメントが46%増だったことだ。トラック部門は昨年12月に1万679台の生産を記録したが、これは11月の1万3170台より18.9%低い、2023年12月の8262台より29.3%高い。全米自動車工業会(ANFAVEA)によると、昨年の累計生産台数は14万1252台で、2023年の10万535台より40.5%増加している。

- リープヘル航空宇宙輸送は、サンパウロ州グアラティンゲタの航空宇宙製造拠点を拡張するため、今後10年間で5000万ドルの投資を行うと発表した。この画期的な決定は、同社が地元の経済市場状況と関連する政府支援を信頼していること、およびこの地域に高度なスキルを持つ労働力があることに基づいている。2005年以来、Liebherr-Aerospace Brasil は、飛行制御および作動システム、環境制御および熱管理システム、着陸装置システム、航空機エンジン用の重要なハイテク部品を製造してきた。同社は Nadcap などの最新規格に従って認定されており、高度な産業設備を利用できる。
- OcyanとSenai Cimatecは、コストと環境リスクを削減する水中井戸用ロボットを開発するために Petrobras と協力協定を締結した。世界の鉱業では、革新的で持続可能な慣行を促進するために、企業と機関間の協力協定が不可欠になっている。新しいテクノロジーの出現と環境への懸念の高まりにより、セクター間の協力は進歩のための重要な指針となっている。最近、Ocyan、Senai Cimatec、Petrobras の協力は、デジタル変革と運用効率に向けた[DH1] [GU2]の取り組みを組み合わせることで、戦略的パートナーシップの力を実証した。このイニシアチブは、プロセスを最適化するだけでなく、鉱業の未来を活用してリスクとコストを削減することを目指している。
- セナイ シマテックは、ペトロブラスおよびシェル ブラジルと提携して、世界初となるオンデマンド海洋底ノード(OD OBN)の工場も開設します。OD OBNは、特にブラジルのプレソルト層で、地下貯留層から反射された地震波を測定することで石油貯留層を管理するセンサーの一種です。このデータはその後スーパーコンピューターで処理され、水とガスの抽出および再注入率の最適化を促進して油井の生産量を向上させます。この取り組みは、プロジェクト パートナー、ペトロブラス、シェル ブラジルから、国立石油天然ガスおよびバイオ燃料庁(ANP)の研究開発条項を通じて1,227万ドルの投資を受けました。

メキシコ

- 韓国のDoosung Techは、2025年1月に初期投資2,500万ドルでモンクローバに工場を開設します。この工場では、電気自動車のバッテリーの部品を生産する。
- チワワ州では、エマソンの新工場の起工式が行われた。このプロジェクトは2,200万ドルの投資となり、フロー測定技術の大手企業の拡張戦略の一環である。工場はバファル ノルテ工業団地に建設される。
- ゴム加工機械の世界的リーダーである中国企業Mesnacは、ゴム製造システムを生産するグアナファト州レオンに新しい生産工場を設立するために2,000万ドルの初期投資を発表した。
- Amazon Web Servicesは、インフラストラクチャを拡張し、機械学習、アート、およびデータセンターの分野で革新をもたらすデータセンターを開発するために、メキシコのケレタロに50億ドルを投資する。
- バイエルは、医薬品生産を拡大し、グローバルイノベーションセンターを設立するために、メキシコ州に5,500万ドルを投資すると発表した。
- 北米向け産業用発電機およびオルタネーターの日本のティア1メーカーである日本電産は、タマウリパス州レイノサの工場拡張に2,300万ドルを投資した。
- バヒオとメキシコ北部の地域は、国内のチップ製造の強化を目指している。この地域にある大手企業には、バハカリフォルニア州のFoxconnとQualcomm、ソノラ州のAmphenole、チワワ州のFoxconn、コアウイラ州のCelestica、ヌエボレオン州のLenovo、タマウリパス州のLGなどがある。

- Hi-Lex Controlsはコアウイラ州に新工場を開設した。自動車業界向けのウィンドウレギュレーター、ドアモジュール、機械制御ケーブルを製造するこのメーカーは、コアウイラ州デラマデロに1,500万ドルの投資を必要とする新施設を開設した。
- コープランドはコアウイラ州に施設を開設した。持続可能な暖房および冷房ソリューションのリーダーとして、同社はアルテアガに2,200万ドルを投資して新しいコンプレッサー工場を立ち上げた。
- バルジJMCペーパーはメキシコのフアレスに新しい施設を開設した。紙加工施設に合計4,000万ドルを投資した。
- フェルマカネットワークスは、2025年末までに稼働する予定のデュランゴの新しいデータセンターに35億ドルを投資する予定です。
- ダイマーはメキシコのセラヤに1,500万ドルを投資して新しい施設を開設した。この工場は、自動車、医療、白物家電、家具、通信などの業界向けの樹脂ベースの製品を生産する。
- シノブームはバヒオに1億5,000万ドルの新たな投資を発表した。この工場はリフティングプラットフォームを製造し、2025年半ばに稼働を開始する予定。
- Envases Universales (Universal Packaging) は、モンテレーの施設を5,000万ドルを投資して拡張する。この新しい拡張により、パッケージングシステムの生産が強化される。
- Doowon Refrigeration は、アポダカの新しい施設に1,800万ドルを投資した。この施設は、空気移動およびHVAC システム用の自動車部品、およびホースと配管システムの製造に重点を置く予定。
- Guntnerは、ヌエボ レオンに5番目の工場を開設する。1,500万ドルを投資して、ドイツに拠点を置くこの会社は、冷却システムの生産を拡大する。
- Bombardier Recreational Productsは、特に新しいCan-Amモデル向けの電気部品とバッテリーの新しい生産ラインを開設した。

(AMT ONLINE 2025年2月3日)

◆海外業界動向：東南アジア

ASEAN貿易圏全体の2024年のGDP成長率は4.5%であった。2025年も成長が続くと予想されており、米国の工作機械産業にとって最適なターゲット市場はマレーシア、タイ、ベトナムである。業界情報やその他の豆知識については、以下をお読みください。

成長の主な原動力

国内消費

マレーシア、タイ、ベトナムの経済成長の主な原動力の1つは、国内消費の増加である。これらの国ではいずれも、中流階級が急成長し、都市化が進み、可処分所得が高く、堅調な消費者支出に貢献している。

マレーシア、タイ、ベトナムは、戦略的な立地、競争力のある人件費、好ましい投資環境により、引き続き多額の外国直接投資(FDI)を誘致している。マレーシアのFDIは2024年に2倍になり、タイでは38%増加した。ベトナムは380億ドルで横ばいであったが、マレーシアとタイを上回った。これらの国のGDPの約25%は製造業によるものである。予想どおり、FDIのかなりの部分が製造業に向けられている。これは、工作機械の輸入が規模と成長の両面で重要であることも意味する。

世界のメーカーが中国から撤退

生産の国内回帰が米国で話題になっている一方で、東南アジアにも同様の傾向が現れ、利益をもたらしています。コスト、関税、地政学的緊張が高騰する中、一部の世界のメーカーは生産を完全に中国国外に移している。一方、それほど積極的ではないメーカーは近隣の東南アジアに新しい工場を設立することでサプライチェーンを多様化している。この戦略は「チャイナ プラス ワン」戦略と呼ばれている。

両方のシナリオの例には、幅広い業界が含まれます。

- マレーシア：Intel、Infineon Technologies、Nvidia、Masimo
- タイ：Foxsemicon Integrated Technology Inc.、Delta Electronics、Michelin、Great Wall Motors(中国)
- ベトナム：Samsung Electronics、Apple、Foxconn、Intel、Nike

工作機械業界の販売機会

マレーシア：「東洋のシリコンバレー」

マレーシアのペナン市は、1970年代にIntelが工場に多額の投資を行ったときに「東洋のシリコンバレー」というニックネームを得た。その後すぐにAMD、日立、ヒューレット パッカードが続いた。ペナンの産業基盤は多様化し、電子機器、医療、精密加工部品などが含まれる。マレーシアの中央には首都クアラルンプールがあり、製造業は自動車と一般産業に集中している。最後に、シンガポールのすぐ向かいの南部地域にはジョホールバルがある。この地域はシンガポールのメキシコとも言えるでしょう。多くのシンガポール企業がこの地域に施設を設置しているからである。主要産業には航空宇宙、MRO、電子機器、化学、石油化学、プラスチックなどがある。2024年にマレーシアは200億ドルのFDIを受け取ったが、これはタイとベトナムがそれぞれ受け取った額の約半分である。

注目の投資：

- 2024年8月、チューブレスインスリンポンプメーカーのInsulet Corp.は、ジョホールバルへの2億ドルの投資の一環として、今後数年間でマレーシアの製造工場を拡張する計画を発表した。
- Plexus Corp.は、2024年7月に、半導体資本設備事業を拡大し、マレーシアの新産業マスタープラン2030をサポートし、大手ヘルスケアおよびライフサイエンス企業の成長を継続的にサポートするために、施設に2億4,000万ドルを投資すると発表した。
- 2023年12月、主要なターゲット市場での製造およびテストに使用する革新的なテストおよびプロセス技術ソリューションのグローバル サプライヤーであるinTEST Corp.は、マレーシアのペナンに新しいセンター オブ エクセレンスを4,700万ドル投資すると発表した。このセンター オブ エクセレンスは、同社の3つの事業部門すべての営業、エンジニアリング、サービス、製造を同じ場所に配置する。
- 2023年12月、サーバー電源のリーダーであるCompuware Technology Inc.は、データ センター、サーバー、AIアプリケーションに対する世界的な需要の高まりに対応するために、マレーシアにさらに4つの工場を設立するために10億ドルを超える投資を発表した。

主要展示会：Metaltech、2025年5月14～17日

タイ：「東南アジアのデトロイト」

タイは、世界第5位のオートバイ生産国である。さらに、タイの工作機械市場は主に自動車生産によって牽引されている。年間200万台弱を生産し、その約半分が輸出されている。ICEからEVプラットフォームへの移行に関する不確実性により、工作機械市場は低迷しているが、2025年には自動車販売が回復し、それに伴い工作機械業界も回復するという楽観論が高まっている。中国とそのEVプラットフォームは、ICEおよびハイブリッドプラットフォームを擁する既存の日本の自動車メーカーにとって主な挑戦者である。

注目の投資：

- ハーレーダビッドソンは、タイの生産ラインを拡張するために7,200万ドルの投資を発表した。
- ハードドライブディスク生産の世界的リーダーであるウェスタンデジタルは、生産能力を拡大するために新しい工場を建設するために6億9,300万ドルの拡張を発表した。同社の施設は、タイ投資委員会によると、タイの東芝は、現在2万8000人の従業員を擁し、世界のハードディスクの約80%を生産している。
- 持続可能なソリッドステート冷却の世界的リーダーであるPhononicは、2024年に向けてタイに2,700万ドルの投資を完了した。この投資には、タイに100%所有の子会社を設立することが含まれており、APAC本社として機能する。
- Advanced Energyは現在、総投資額2億3,000万ドルの製造施設を建設中である。同社は、ミッションクリティカルなアプリケーションとプロセス向けに、高度にエンジニアリングされた高精度の電力変換、測定、制御ソリューションを設計および製造している。
- 東芝タイランド(日本/タイ)は、冷蔵庫、洗濯機、エアコン、小型家電の生産を拡大するために2億700万ドルの投資を発表した。

主要展示会：タイ・メタレックス、2025年11月19～22日。

ベトナム：アジアにおける「製造業の台頭する虎」

ベトナムは、この地域で最も急速に成長している経済である。ベトナムの成功の鍵は、米国への輸出量で5番目に大きい国であることである。工作機械産業の観点から見ると、ベトナムの北部地域はサムスン電子とアップル、およびそのサプライチェーンに大きく焦点を当てている。ホーチミン市郊外の南部地域は、一般的な機械加工と金型に重点を置いている。南部地域の最大の成果の1つは、レゴグループから10億ドルの投資を獲得し、世界で最も高度に自動化されたプラスチック部品製造施設の1つを設立したことである。

注目の投資：

- ボーイングはハノイに常設事務所を設立した。同社は地元のサプライヤーと協力して、民間航空機プログラム用の部品と原材料を生産している。一例として、韓国の航空産業サプライヤーであるKPエアロは、ダナンの工場に2,000万ドルを投資する計画である。さらに、ユニバーサルアロイ社は、ボーイングとエアバスの部品を生産するために、ダナンハイテクパークの工場に1億7,000万ドルを投資した。

- ジョンソンヘルステック社は、2024年8月に、ベトナム北部の運動器具製造・組立拠点に1億ドルを投資すると発表しており、これは同種の施設としては世界最大となる。
- フォックスコンとしても知られる鴻海精密(台湾、台北)は、エレクトロニクス分野の工場に合計4億ドルの投資を2件行っている。
- ペガトロニ(台湾、台北)は、ベトナム北部で新工場の建設を開始した。同社は今後2年間、最大5億ドルを投資してプロジェクトを継続する。

(AMT ONLINE 2025年2月7日)

◆イタリア工作機械受注：2024年第4四半期は増加傾向

UCIMU (イタリア工作機械・ロボット・自動化工業会) 会長リカルド・ローザ氏は「これはプラスの数字だが、依然として大きな困難が残っている。5.0で定義された簡素化を発効させる法令が成立すれば、国内需要が本当に勢いを取り戻すと確信していると述べた。

2024年第4四半期、UCIMUがまとめた工作機械受注指数は、2023年10月～12月期と比較して11.4%増加した。指数の絶対値は78.7(基準年2021=100)であった。

イタリア国内受注は2023年第4四半期に比べて33.3%増加し、絶対値は58となった。一方、海外受注では前年同期比6.5%減と減少した。指数の絶対値は83.6となった。

年間ベースでは、受注は引き続きマイナス圏にあり、2023年比5.6%減(絶対指数65.5)、国内受注3%減(絶対指数39.6)、海外受注7.5%減(絶対指数84.3)となった。

UCIMUのリカルド・ローザ会長は、「2024年に関する受注の全体的な結果は、ここ数年で最も残念なもの1つだ。2020年だけがこれより悪い結果であった。この場合、海外市場でのビジネスは1年の大部分で十分に繁栄していたため、落ち込みを抑えることができた」と述べている。

「一方、前四半期に関しては、2桁の増加は確かに良いニュースであり、前四半期にすでに記録していた小さなトレンドの反転を確認するものでもある」とリカルド・ローザ会長は付け加えた。とはいえ、今年のトレンドについては懸念が残っている。国内需要の弱さに加えて、再開に苦労しているにもかかわらず、海外市場に関連するビジネスが明らかに減速しているからである」。

「私たちが取り組むべき状況は、イタリアだけでなく海外でも多くの不確実性要因を示している。海外では、トランプ氏が世界の舞台に再び登場したことで、誰もが不安に陥っている。偏見なく、彼の動きが実際にどうなるかを見守っている」経済政策など、さまざまな面で我々にとって、米国は最大の輸出市場である。新大統領が再始動を予定している米国の製造業は、高品質の生産システムと自動化システムを必要としており、この分野の「メイド・イン・イタリア」はまさにこのニーズを満たしている。このため、関税の問題も未知数であり、ドルが自国通貨に対して上昇する可能性に関しても、必ずしも我々にとってマイナスではないサプライズをもたらす可能性がある」。

「結局のところ、ドイツの困難、自動車問題で悩まされているヨーロッパの弱さ、ロシアなどの重要な市場の閉鎖、そしてますます遠ざかる中国との2つのブロックへの世界の分断の拡大により、この分野の企業は国際化の面で新たな措置を講じざるを得なくなり、最も関心の高い国々でのプレゼンスを強化することを目指している」とリカルド・ローザ氏は指摘した。この意味で、UCIMUが2024年後半に開始した「Oficina Italiana de Promoción Mexico」というイニシアチブは、代表組織が潜在力の高い市場で企業を支援できる方法の一例である。

「国内の状況は、決して明るいとは言えない。確かに、今年後半に何かが動きいたが、それはまだかなり限定的な活動だ。残念ながら、達成された結果に対する満足度は、2つの理由から部分的に低下している。1つは、このデータが明らかに低かった2023年第4四半期の数字と比較されていること、もう1つは、例年どおり、第4四半期の受注が以前の四半期よりも少し多かったことである。ただし、今年の初めを見ると、5.0で定義された簡素化を有効にする法令が制定され次第、国内需要が勢いを取り戻すことは間違いない。」

「これらの前提に基づき、2025年が対策4.0と5.0の完了と一致することを考慮して、イタリアの製造業のデジタル化に伴う新しい産業政策計画を今すぐに考案する必要があることを政府当局に指摘したい」とリカルド・ローザ会長は結論付けた。4.0と5.0の後、工業生産の発展は技術革新の軌道に乗り続け、人工知能もますます組み込まれるであろう。製造業の競争力の向上を確実にするためには、時代遅れの機械の交換を奨励し、最先端の生産システムに投資する人々に報いる必要がある。データトレーニングと人材育成が含まれている場合はなおさらである。

「行政システム。これに取り組む必要がある。当会は政府当局と対話する準備ができている」。

(UCIMU PRESS RELEASE 2025年1月27日)

◆中国主要半導体、自動化、リチウム電池メーカー 2024 年業績速報

1. 半導体

Piotechは、2024年の売上高が前年同期比で40%以上増加すると予測

2025年1月20日夜、Piotechは2024年の年度業績予想を公表しました。財務部門の初歩的な計算によると、同社は2024年に売上高40億元から42億元を達成する見込みであり、前年同期比で12.95億元から14.95億元の増加となり、前年比で47.88%から55.27%の成長が見込まれています。

* Piotechは2010年に設立され、高性能半導体薄膜成膜装置の研究開発、製造、販売を専門とするハイテク企業です。主な製品にはPECVD、ALD、SACVD、HDPCVD、およびウェハ混合バンディング装置があり、これらは集積回路やディスプレイパネルなどの高精度製造分野で広く利用されています。

ACMは、2024年の売上高が最大で50%以上の増加が見込まれると発表

2025年1月14日、ACMは2024年の業績予想を発表しました。同社は、2024年の売上高が56億元から58.8億元に達し、前年比で44.02%から51.22%の増加を見込んでいます。2024年の業績増加の主な理由について、ACMは、世界の半導体業界の回復、特に中国本土市場の需要が強いことを挙げています。

*ACMは2005年に設立され、半導体設備の研究開発、製造、販売を専門とする企業です。主な製品には、半導体洗浄設備、電鍍設備、先進的なパッケージング湿式設備、縦型炉管設備、塗布現像設備、およびPECVD設備が含まれます。

Changchuan Technologyは、2024年の純利益が785.75%から1007.18%の増加が見込まれると発表

2025年1月21日夜、Changchuan Technology (Hzcctech)は業績予想を発表し、2024年に上場会社の株主に帰属する純利益が4億元から5億元を見込んでおり、前年同期比で785.75%から1007.18%の増加となる見込みです。報告期間中、世界の半導体市場は2023年の低迷期から徐々に回復しつつあり、セグ

メント別の顧客需要が顕著に増加しています。会社の運営管理レベルは引き続き効果的に向上しており、費用率も徐々に安定してきているため、上場会社の株主に帰属する純利益が増加しています。

* Changchuan Technologyは2008年4月に設立され、集積回路専用装置の研究開発、製造、販売を専門とする企業です。主な製品にはテスト機、選別機、プローブステーション、AOI装置などが含まれます。

Lion Microelectronicsは、2024年に約2.55億元の赤字を予想しており、前年同期の利益から赤字に転落する見込み

2025年1月16日、Lion Microelectronicsは2024年度の業績予想を発表し、2024年度の売上高は約30.93億元、前年比約15%増を見込んでいました。一方、純損失は約2.55億元に達する見込みで、前年同期の利益6575.25万元から赤字に転落する予想です。

2023年の増産プロジェクトが順次稼働を開始したことで、本報告期間中の減価償却費用は約9.38億元となり、前年比で約2.06億元増加しました。また、市場シェアを拡大するため、同社は半導体シリコンウェハーおよび半導体パワーデバイスの販売価格を引き下げました。

* Lion Microelectronicsは2002年3月に設立され、半導体シリコンウェハー、半導体パワーデバイスチップ、化合物半導体RFチップの研究開発、製造、販売を専門とする企業です。

AMECは、2024年の売上高が40%以上の増加と予測

2025年1月14日、AMECは発表を行い、財務部門の初歩的な試算によると、2024年の売上高は約90.65億元に達し、2023年と比較して約28.02億元の増加、前年比約44.73%増を見込んでいます。親会社に帰属する純利益については、2024年は15億元から17億元の規模を予想しており、前年同期と比較して約16.01%から4.81%の減少が見込まれています。

* AMECは2004年5月に設立され、先端半導体設備および汎用半導体設備の研究開発、製造、販売を行っている企業です。主な製品には、容量性プラズマエッチング設備、インダクティブプラズマエッチング設備、そしてMOCVD設備が含まれます。

Oriental Semiは、2024年の純利益が66.43%から77.15%減少する見込み

2025年1月20日、Oriental Semiは2024年度の業績予想を発表し、同社は2024年の親会社所有者に帰属する純利益が3200万元から4700万元になると予測し、前年同期比で66.43%から77.15%の減少を見込んでいます。

報告期間中、会社全体の販売規模は前年同期に比べて増加しましたが、製品販売価格の下落により、会社の粗利率は低下し、結果として会社の収益性が弱まっています。

* Oriental Semiは2008年9月に設立され、高性能パワーデバイスの研究開発と販売を専門とする技術駆動型半導体企業です。主な製品には、高圧スーパー結MOSFET、中低圧シールドゲートMOSFET、スーパーシリコンMOSFET、TGBTなどがあり、これらは主に電気自動車、5G基地局、データセンター、産業用電源などの分野で広く使用されています。

WINGTECHは、2024年に30億元から40億元の赤字予想

2025年1月17日、WINGTECHは2024年の業績予想を発表し、親会社に帰属する純損失が30億元から40億元になると予測し、非継続的な親会社に帰属する純損失は35億元から45.5億元になると予想しています。2023年同期のこれらの数値はそれぞれ11.81億元と11.27億元でした。

* WINGTECHは1993年1月に設立され、半導体、光学モジュール及び製品統合を一貫して行う企業です。主な事業内容には、半導体パワーデバイス、アナログチップの研究開発、デバイス生産、パッケージングおよびテスト、さらに携帯電話、タブレット、ノートパソコン、IoTデバイスなどの通信端末製品の研究開発および製造が含まれます。

WILLSEMIは、2024年の純利益が467%以上増加する見込み

2025年1月21日、WILLSEMIは発表し、会社は年間売上高が254.08億元から258.08億元に達し、前年同期比で20.87%から22.78%の増加を見込んでいます。2024年の親会社帰属純利益は31.55億元から33.55億元を見込んでおり、前年同期比で467.88%から503.88%の増加を見込んでいます。

* WILLSEMIは2007年5月に設立され、半導体ディスクリートデバイス、電源管理ICなどの半導体製品の研究開発設計、および受動部品、構造デバイス、ディスクリートデバイス、ICなどの半導体製品の販売業務を行っています。

2. ファクトリーオートメーション

HCFAは、2024年に1.42億元から1.78億元の赤字予想

2025年1月17日、HCFAは2024年度の業績予想として、財務部門の初期計算に基づき、営業収益が8億元から8.5億元になると予想し、前年同期と比較して28.35%から23.87%の減少が見込まれています。また、親会社に帰属する純利益は赤字となり、-1.42億元から-1.78億元になる予想です。

同社は、各分野の市場を攻め、革新能力を向上させるために、逆変換、太陽光発電・蓄電、精密ガイドレールねじ、産業用モーターのプロジェクトを新たに追加し、コントローラーやインバーター製品の最適化、細分化された業界向けのソリューションおよび制御システムの開発に取り組んでいます。これにより、市場と研究開発への投資が増加しました。さらに、同社のデジタル化工場および杭州研究院の投資プロジェクトが固定資産に転換され、減価償却費用が増加したため、純利益は前年比で減少しました。

* HCFAは2011年11月に設立され、産業自動化製品の研究開発、製造、販売およびアプリケーション統合を専門とする企業です。主な製品には、サーボシステム、PLC、インバータ、エンコーダーなどがあります。

HNIONICSは、2024年の純利益が黒字転換する見込み

2025年1月21日、HNIONICSは業績予想を発表し、2024年に上場会社の株主に帰属する純利益が1000万元から1500万元になると予想し、黒字転換を見込んでいます。会社の太陽光EPC事業は急成長を遂げ、会社の業績の転換を効果的に推進し、損失から利益へと転換した要因となっています。

* HNIONICSは2003年6月に設立され、主な業務は高圧インバータ、コンバータ、蓄電システムなどを手掛けたメーカーです。

STEPは、2024年度の純損失が1.85億元から3.67億元になる見込み

2025年1月17日、STEPは2024年度の業績予想を発表し、2024年の親会社に帰属する純損失が1.85億元から3.67億元になる見込みで、前年同期は3.79億元の損失でした。

* STEPは1995年に設立され、主にスマート製造、産業用ロボット、モーションコントロールおよび電気制御業務を行っており、製品にはエレベーター制御システム、ロボットおよび自動化設備が含まれます。

HITEは、2024年度の純損失が1.4億元から1.9億元になる見込み

2025年1月17日、HITEは2024年度の業績予想を発表しました。主力事業の進捗が年初の予算目標と大きな差があり、営業収入が予想を下回り、費用の投入が増加し、重大な資産の減損が影響したため、2024年の親会社に帰属する純損失が1.4億元から1.9億元になると予想され、前年同期比で利益から損失に転じる見込みです。

* HITEは1994年3月に設立され、主な事業は産業電気自動化、産業情報化、そして新エネルギー分野に関連する事業を展開しています。製品は、スマート製造や新エネルギー蓄電分野に広く利用されています。

3. リチウム電池

CATLは、2024年の純利益が前年比11.06%-20.12%増加すると予測

2025年1月21日、CATLは2024年度の業績予想を発表し、2024年の営業収益は3560億元から3660億元に達し、前年比で8.71%から11.2%の減少が予想されています。一方、親会社に帰属する純利益は490億元から530億元の範囲となり、前年比で11.06%から20.12%の増加が見込まれています。CATLは、同社の電池製品の販売量が増加したものの、リチウム炭酸塩などの原材料価格の低下に伴い、製品価格が調整されたことにより、営業収益は前年比で減少する見込みだとしています。

* CATLは、2011年に設立され、福建省宁德市に本社を構える、世界最大の車載電池および蓄電池企業です。

Libatteryは、2024年の純利益が赤字になる見込み

2025年1月21日、Libatteryは2024年度業績予想を発表し、親会社に帰属する純利益が5.15億元から6.65億元の赤字になる見込みで、前年同期の利益25.27億元と比較して大幅な減少が予想されています。業績変動の原因について、Libatteryは、近年同社が属するリチウム電池セパレータ業界での市場競争が激化し、加えて下流のコスト削減圧力が影響し、リチウム電池セパレータ製品の価格と粗利が低下したためだと説明しています。

特筆すべきは、Libatteryが2016年に上場しており、2024年の純利益の赤字予想でしたが、同社上場以来初めての年度純損失となる可能性があるという点です。

* Libatteryは、2006年に設立され、云南省玉溪市に本社を構える、リチウム電池セパレーターと包装材料メーカーです。

◆米国通商動向

BIS、コネクテッド ビークル テクノロジー禁止

米国商務省産業安全保障局(BIS)は、中国とロシアのコネクテッド ビークル テクノロジーを禁止する最終規則を発行した。この規則には、以前の草案からいくつかの変更が組み込まれており、特に商用車を除外している。商用車は除外されており、これは別の規則制定プロセスで対処される予定。また、コンプライアンスのタイムラインに関してある程度の柔軟性が提供されている。

9月に最初に提案されたこの禁止は、2027年モデルの車両のソフトウェアと2030年モデルのハードウェアに対して発効する予定。規則制定プロセスは、昨年2月に開始された、コネクテッド ビークルのサプライチェーンにおける国家安全保障上の脅威に関するBISの調査に続くものである。

最終規則によると、外国の敵対勢力にリンクされたソフトウェアとハードウェアを組み込んだコネクテッド ビークルは、データの悪用や潜在的な干渉のリスクをもたらす。したがって、この規則は、中国とロシアのソフトウェアとハードウェアが米国の道路で稼働するコネクテッド ビークルに統合されるのを防ぎ、消費者を保護し、米国の自動車業界のセキュリティを強化することを目的としている。

当初の提案では商用車が対象であったが、最終規則では商用車が免除され、その分野の複雑さに合わせた別の規制アプローチが可能になる。BISは商用車に関連するコンプライアンス上の大きな課題を認識しており、この免除によってその市場で特定された国家安全保障上の懸念が軽減されることはないと言っている。この除外を明確にするため、BISは「コネクテッド ビークル」の定義を改訂し、他の政府機関が使用する既存の分類に合わせて、総重量定格(GVWR)が10,000ポンドを超える車両を除外した。

コンプライアンスを促進するため、BISは特定の認可を通じて段階的なアプローチを実施する場合がある。これらの認可により、輸入業者が国家安全保障上のリスクを軽減する特定の条件を満たしている場合、通常は禁止されている取引が許可される。このケースバイケースの評価では、外国の敵対者の関与の程度と、利用可能な潜在的なリスク軽減策を評価する。

BISは、実装日が中間世代の車両生産サイクルと一致する可能性があることを認識している。そのような場合、BISは、次の世代の車両でコンプライアンスに向けて進捗していることを示すメーカーに対して、期限付きの認可を発行する場合がある。さらに、業界関係者が提唱する段階的な導入も検討される可能性がある。通常、これらの特定の認可は少なくとも1年間有効で、BISは90日以内に申請に対応することを約束している。ただし、不可抗力によるサプライチェーンの混乱や、モデル年中の予期しないサプライチェーンの変更に対応するために、規則の発効日に販売または輸入されている車両に対しては、より短い認可が付与される場合がある。これらの例外は、メーカーが長期的なコンプライアンスソリューションに移行する間、運用の継続性を確保することを目的としている。

この規則では、規則発効日の1年前に設計、開発、製造、または供給されたレガシー ソフトウェアも除外される。この除外により、米国市場にすでに存在する車両は影響を受けないことが保証される。さらに、2026年3月17日より前に開発されたレガシー ソフトウェアは免除されるため、規制対象事業体は知的財産権を譲渡し、組織内でソフトウェア開発と保守の責任を引き受けてコンプライアンスを達成する時間がある。BISは、このアプローチにより、中国とロシアで積極的に保守されているソフトウェアをターゲットにしながら混乱を最小限に抑えることで、国家安全保障上の懸念と業界の実現可能性のバランスが取れていると主張する。

ただし、BISは、長期的なセキュリティ リスクを理由に、レガシー ハードウェアに対する同様の除外の拡大を拒否した。更新やパッチ適用が可能なソフトウェアとは異なり、レガシー ハードウェアには永続的な脆弱性が潜んでいる可能性があり、広く展開された場合、緩和が困難または不可能になる可能性がある。対照的に、ソフトウェアのセキュリティ上の欠陥は、継続的な開発およびテスト プロセスを通じて検出され、修正される可能性が高くなる。

業界の訴えにもかかわらず、最終規則では同盟国に対する例外は提供されていない。BISは、特定された脅威は、非敵対国から輸入された完成品の原産地ではなく、不透明なサプライ チェーンに起因すると主張している。自動車サプライ チェーン内のビジネス グループは、同盟国で開発された技術を「外国の利益」の定義から除外するようBISに要請していた。しかし、BISは、非敵対国の製造業者は依然として中国またはロシアの影響を受ける可能性があると主張した。

中国とロシア以外の外国の利益を持つ製造業者は、自動的に禁止の対象となるわけではない。代わりに、そのような企業はBISに適合宣言書を提出する必要がある。

さらに、最終規則では、ファームウェアとレーダー ハードウェアが禁止の対象から除外されている。ファームウェアは、ハードウェア デバイスを制御、構成、および通信するように特別にプログラムされたソフトウェアとして定義されており、ハードウェア サブコンポーネントと一緒に開発および出荷されることが多いため除外された。ファームウェアは同様のサイバー セキュリティ リスクをもたらすが、BIS はファームウェアを禁止することは事実上ハードウェアの禁止に相当すると判断した。

(Global USA 2025年2月3日)

DHS、ウイグル強制労働防止法 37 事業体追加を発表

国土安全保障省(DHS)は、ウイグル強制労働防止法(UFLPA)の事業体リストに37の事業体を追加したことを発表した。これは、2022 年に同法の施行が始まって以来、最も大幅な拡大となる。今回の更新により、リストに掲載された事業体の総数は144に増加し、強制労働と闘い、グローバル サプライ チェーンの完全性を守るための政権の取り組みの強化を強調している。

新たにリストに掲載された事業体には、重要な鉱物の主要サプライヤーや世界最大級の繊維メーカーが含まれており、いずれも中華人民共和国(PRC)の強制労働慣行に関連している。これらの企業は、新疆ウイグル自治区(XUAR)のウイグル人やその他の迫害されている民族グループを対象とした労働力移転プログラムに参加したり、新疆ウイグル自治区から材料を調達したりしていることが確認されている。

強制労働撲滅への取り組み

アレハンドロ・N・マヨルカス国土安全保障長官は、この37社が追加されたことは、基本的人権と公正で競争的な市場に対する継続的な取り組みを示すものだ述べ、強制労働の根絶に向けた政権の取り組みを再確認した。ロバート・パスカル政策担当次官代理は、今回の拡大の重要性を強調し、これはエンティティリストのこれまでの最も大幅な更新であり、米国税関・国境警備局(CBP)の執行能力を強化するものであると述べた。

対象産業とエンティティ

UFLPAエンティティリストへの最新の追加には、鉱業、太陽エネルギー、繊維などの主要産業で事業を展開する世界的に認知された企業が含まれている。

- 繊維：Huafu Fashion Co., Ltd.は、25の子会社とともに、新疆ウイグル自治区での綿花栽培、加工、繊維製造に関与していることが特定された。
- 太陽エネルギー：東海JAソーラーテクノロジー株式会社と宏源グリーンエネルギー株式会社は、新疆ウイグル自治区からポリシリコンを調達したとして警告を受けた。
- 鉱業：新疆紫金亜鉛工業株式会社とその子会社は、新疆ウイグル自治区の鉱山から材料を調達し、強制労働プログラムに参加したとして告発された。

強化された執行措置

2025年1月15日より、米国税関・国境警備局(CBP)は、これらのリストに載っている事業体からの輸入に対して反証可能な推定を適用する。この措置により、強制労働が存在しないことを明確かつ説得力のある証拠で証明しない限り、これらの企業からの商品の輸入が禁止される。UFLPAの執行開始以来、CBPは36億7,000万ドル相当の11,300件以上の出荷を検査した。

この拡大は、重要な産業全体における強制労働の懸念に対処する決定的な一歩であり、米国政府の倫理的労働慣行と人権保護への取り組みを強化するものである。

(Global USA 2025年2月3日付)

3. 工作機械関連企業動向

◆ DN ソリューションズ、富川デジアン産業団地に工作機械先端研究開発センターを構築

(株)DNソリューションズが2028年初めに入居を目標に京畿道富川市に「(仮称)先端研究開発センター」を構築する。

DNソリューションズは、首都圏の人材を確保し、未来革新技術の開発需要に積極的に対応するため約2,400億ウォンを投資して、富川デジアン第1都市先端産業団地内の約1.4万㎡(4,300坪)規模の敷地に先端研究開発センターを新築する計画だ。

これと関連してDNソリューションズは10日、富川市などと富川市庁でデジアン第1都市先端産業団地(以下、デジアン産業団地)入居のための協約を締結した。

デジアン産業団地入居会社の選定は昨年、富川市の公告後、DNソリューションズが提出した事業計画書が富川市審議委員会を最終通過したことで確定した。

先端研究開発センターは、DNソリューションズの国内外のもう一つの技術研究所、テクニカルセンターなど技術拠点と緊密に連携して研究開発力量を結集し、革新製品開発を加速化する役割を担うことになる。

DNソリューションズは、先端製造分野の技術的リーダーシップを維持するため、韓国昌原、中国煙台、ドイツのジグ・ビーレフェルト、インドのベンガルール(予定)の技術研究所及び地域拠点テクニカルセンター(韓国昌原、ドイツドルマゲン、米国シカゴ、メキシコ(予定))を構築または構築中である。

これは伝統的な工作機械を越えて人工知能(AI)、ソフトウェア、ロボット、自動化、自律製造などのための先端技術を世界的なレベルで確保し、先端製造分野のDNソリューションズ技術リーダーシップを維持するための努力の一環だ。

DNソリューションズは先端研究開発センターが確保されれば、ソウル及び近隣大学・研究機関との協業が容易になり、人材をより積極的に誘致できると期待している。

富川デジアン産業団地は、首都圏の産業インフラと先端技術生態系が結合した最適の立地で、ソウルの国際関門である金浦空港を中心にソウル麻谷地区と対称型を成している。金浦空港周辺は様々な企業の研究開発施設が集まり、首都圏最高水準の大規模研究開発クラスターとして浮上している。

DNソリューションズのキム・ウォンジョン代表理事は「デジアン第1都市先端産業団地は、首都圏最高水準の研究開発クラスターとして浮上している」として「新しく用意する先端研究開発センターは当社が構築しているグローバルR&D体系を強化し革新を先導し、DNソリューションズの技術リーダーシップを強固にする核心拠点になるだろう」と話した。

(機械新聞 2025年1月13日付)

<https://www.mtnews.net/news/articleView.html?idxno=20745>

◆昌原市議会、現代ウィア工作機械事業部売却の影響について討論会

慶尚南道昌原市議会は24日、現代ウィアの工作機械事業部の売却による雇用危機と地域経済への波及効果についての討論会が議会の大会議室で開催されたと明らかにした。

昌原市のパク・ヘジョン議員の要請で用意された討論会には、昌原大学のシム・サンワン名誉教授が発題者として出て、現代ウィア事業部の売却過程による雇用危機問題を深層的に分析した。

現代ウィアは昨年10月、Rylson Private EquityとSMECコンソーシアムを売却優先交渉対象者に選定した後、売却手続きを本格化した。

売却価格は約3,400億ウォンと推定され、売却後の資本はロボット、防衛産業、電気自動車部品など新産業に再投資される予定だが、工作機械事業部の研究事務職労働者250人余りが強制転籍と雇用条件の低下を憂慮して反発している。

現代ウィアはこれに対して「競争力強化のために事業構造を再編しており、工作機械事業部売却は不良事業整理ではなく未来成長動力を確保するための戦略的決定」と説明した。

だが、事務研究職労働者たちは物的分割方式で新設法人に転職が強制される可能性を問題視し、売却反対と雇用安定を要求している。

金属労組現代ウィア支会は「すでに生産職労働者の転換配置を完了した反面、事務研究職労働者は協議手続きなしに売却対象に含まれ差別を受けている」と主張している。

現代ウィアの工作機械事業部は昌原地域の製造業の核心産業で、年間売上4000億ウォンを記録している。

売却が現実化する場合、協力業者と地域経済に及ぼす否定的な影響も憂慮される。

また、昌原工業団地の高度化過程で労働者の雇用安定対策と産業転換に対する具体的な計画が必要だという指摘も出てきた。

シム教授は「昌原産業団地の工作機械産業は韓国の工作機械産業生産量の70%以上を占めるだけでなく、雇用比率も72%以上を占有している」とし、「工作機械産業は国家競争力強化のために非常に重要な産業であり、工作機械産業に対する戦略的観点が重要だ」と強調した。

出席者たちは、現代ウィアの工作機械事業部の売却が単なる企業構造調整を越え、地域産業生態系全般にわたる波及効果を考慮しなければならないという意見を出した。

パク市議会議員は「物的分割を通じた売却時に現れる雇用不安、人口流出などによる地域経済波及影響に対して昌原市次元の対策準備が急務だ」とし、「討論会が昌原公団の産業高度化に伴う労働者の雇用危機と地域経済の持続可能な発展のための政策準備の契機になることを願う」と話した。

一方、討論会には民主党のソン・スンホ最高委員、民主党のイ・フンソク義昌区地域委員長、ユ・ヒョンジュン道議員、ハン・ウンジョン市会議員、金属労組慶南支部のムン・サンファン政策局長、民主党慶南道党のカム・ギュサン労働委員長、政府圏のホ・ソンム国会議員室首席補佐官、現代ウィア研究事務職労組のキム・ジファン教育広報部長が参加した。

(ニューシス 2025年1月24日)

https://www.news1.com/view/NISX20250124_0003045421

◆ Mitsubishi Electric India、コード不要のFAデジタルソリューションを推進するため Itanta Analytics に投資

三菱電機株式会社は、完全子会社のMitsubishi Electric India Pvt LtdがインドのソフトウェアスタートアップGervigreind Data Science Pvt Ltd（「Itanta Analytics」として事業を展開）の株式を取得し、コード不要のデータ分析およびレポート作成アプリケーションを共同で開発・販売すると発表した。協業契約に基づき、三菱電機は自社のファクトリーオートメーション(FA)機器およびFAソリューションソフトウェアを、新しいパートナーのコストと時間を節約するアプリケーションと組み合わせることで、FAデジタルソリューション事業を強化し、製造現場のデジタル化に貢献する予定である。

具体的には、アプリケーションを三菱電機のFA機器と、三菱電機の完全子会社である米国ICONICS, Inc.が開発した監視制御およびデータ収集(SCADA)ソフトウェアGENESIS64TMと組み合わせる。シンプルなコード不要のエンジニアリングで開発されたシステムを使用してデジタルソリューションを実現することが目標である。三菱電機は、パートナーの豊富なアプリケーションノウハウを活用し、FAデジタルソリューション事業をグローバルでさらに拡大していく計画である。

三菱電機は、「サーキュラー・デジタルエンジニアリング」企業への変革を加速させるため、FAシステム事業ではソフトウェア企業への投資や協業を進め、設計、製造、試験、運用、保守など、さまざまな製造プロセスの自動化とデジタル化を強化し、最終的に顧客にクラス最高の製品とソリューションを提供する。

近年、製造業は、資本コストと人件費の上昇、顧客ニーズの多様化、さらなる生産性向上の必要性などの課題に直面している。これに対応するため、製造業ではデジタル技術とデータの活用が進んでいる。特に、労働集約的なシステム構築作業と時間を削減するため、製造業は構築が容易で複雑なプログラミングを必要としない開発環境を求めている。政府の政策に支えられ製造業が高成長を遂げている一方で、人件費の上昇と労働力不足が問題となっているインドでは、データ分析ツールなど、簡単に導入して作業効率を改善できるソフトウェアへの需要が高まっている。

(Mitsubishi Electric India 2025年2月)

◆ Mikron、2024 年純売上高 3 億 7,410 万スイスフランと発表

Mikronは、2024年の暫定および監査前の純売上高が3億7,410万スイスフランで、前年比1.0%増となったと発表した。両事業セグメントとも緩やかな成長を示しており、特に欧州における厳しい市場環境における当グループの回復力を示している。受注残が健全なミクロンは、2025年の初めに好位置につけている。

受注と受注残

2024年の受注は3億8,860万スイスフランで、前年比5.7%減であった。オートメーション事業部は2億6,500万スイスフランで、4.0%減であった。欧州とアジアでの堅調な業績は、米国での減少によって相殺された。マシニング ソリューションズ事業部の受注高は1億2,370万スイスフランで、9.1%の減少で年を終えた。これは、アメリカが成長している一方で、ヨーロッパの市場が全体的に弱体化した結果である。

2025年を迎えるにあたり、3億2,410万スイスフランという健全な受注残を抱えている。これは、前年と比較して6.5%の増加である。

純売上高

純売上高は3億7,410万スイスフランで、前年と比較して1.0%の増加である。

オートメーション事業部は2億3,330万スイスフランで、ヨーロッパでの堅調な成長がアメリカの減少によって相殺され、0.9%の増加となった。マシニング ソリューションズ事業部の純売上高は1.2%増加して1億4,080万スイスフランとなり、特にヨーロッパでの厳しい市場状況を考慮すると、良い結果である。

収益性

2024年度、営業利益率が約8.5%になると予想している（前年度：9.0%）。

（Mikron 2025年1月24日）

4. 展示会情報

◆ IMTEX2025 結果報告

IMTEX 2025は記録的な数の来場者を集め、世界有数の工作機械および製造技術展示会としての地位を強化した。

IMTEX 2025- 開催概要

- 23か国から1,100社の出展者と7つの国別パビリオン。
- 8つの展示館で90,000㎡の展示スペース
- 70か国から133,166人の来場者
- 約3,500億ルピーの受注
- 37,700億ルピー相当の引き合い

1,100社の出展者による画期的なイノベーション、最先端の技術、高生産性ソリューション、デジタルトランスフォーメーション、新製品の発表が、IMTEX2025に参加した70か国からの133,166人のビジターを魅了した。

インド工作機械工業会(IMTMA)主催で2025年1月23日～29日までバンガロール国際展示場(BIEC)で開催したIMTEX 2025と同時開催のTooltech 2025およびDigital Manufacturing 2025は、インドの製造業の成長にとって重要なイベントであることが再び証明された。

IMTEX2025で展示された技術は、さまざまな産業分野の新たな需要を満たすインドの工作機械業界の強みを実証した。

技術のライブデモンストレーションにより、来場者は製造プロセス全体を変革する可能性を直接体験できた。IMTEX2025は、イノベーションとネットワーキングの機会に熱意を示したビジネス訪問者から圧倒的に肯定的な反応を得た。

展示会場は、数多くの取引やパートナーシップが結ばれるなど、ビジネス創出のための活気あるプラットフォームとなった。展示会に参加した企業は、製造業の成長を促進する大きな契約を獲得した。

IMTEX2025で披露されたインドの製造業の力について、IMTMA会長 Rajendra S. Rajamane氏は、「インド企業は、国内需要を満たすためにインドで設計・開発された製品を展示する最前線に立っていた」と述べた。

「インドのOEMは、幅広い用途に適した多数の機械を備え、大きな存在感を示した。企業は、インドおよび海外での市場プレゼンスの拡大の見通しに楽観的であり、これはインドの製造業にとって素晴らしいことである」と同氏は付け加えた。

IMTMAの専務理事兼CEOであるジバク・ダスグプタ氏は、IMTEX 2025への来場者の反応について、「IMTEX 2025は出展者と来場者の両方に多くのものを提供した。展示された技術の進歩は貿易代表団や海外のバイヤーを魅了し、良好な受注と引き合いにつながった。また、バンガロールメトロとBIEC(マダバラメトロ駅)の接続も来場者増加の重要な要因でした」と述べた。

同氏はまた、先進国で見られるように、イノベーションと新製品開発を促進するために、産業界と学界の関係を築くIMTEXの有効な役割を強調した。

i2アカデミアバビリオンと製造技術クイズコンテストで構成されるi2アカデミアスクエアは、業界を共通のプラットフォームに集めた。i2アカデミアスクエアの一環として開催された製造技術クイズコンテストは、学生に最先端の技術を理解させた。

学生を育成し、業界に即した人材にすることを目的としたIMTMAの取り組みであるJAGRUTIには、インド全土のさまざまな工学系参加者が集まった。

IMTEX でのこれらのイベントへの参加は、若い専門家のキャリア志向に良い影響を与えることが期待されている。

機械加工技術に関する国際セミナー、IMTMA - Lakshya 輸出海外バイヤーとのエンゲージメント、自動車部品業界サミットなどのさまざまなイベントには、多くの参加者が集まった。

(IMTMA 2025年1月31日)

5. その他

◆ユーザー産業情報

北アフリカから欧州へ、グリーン水素輸送パイプライン「サウス H2 回廊」構築へ合意

ドイツ、オーストリア、イタリア、チュニジア、アルジェリアの5カ国は、北アフリカで製造するグリーン水素を欧州に輸送するためのパイプライン「サウスH2回廊」の構築で基本合意した。この回廊はEUの主要な水素輸送プロジェクトのひとつであり、特にドイツ南部州への水素供給において重要な役割を果たすと期待されている。

サウスH2回廊は、北アフリカで風力や太陽光発電を利用して生産されるグリーン水素を、イタリア、オーストリア、ドイツに輸送するパイプラインだ。その総延長は3,500〜4,000キロメートルに達し、敷設コストを抑えるため、既存の天然ガスパイプラインを半分以上転用する予定である。このプロジェクトはすでにEUの「共通利益プロジェクト(PCI)」に選ばれている。輸送能力は年間163テラワット時(TWh)で、うち55TWhがドイツ向けとなる見込みだ。

また、生産国であるチュニジアでは、すでに計10件の水素プロジェクトが基本合意に達しており、今後の展開が注目される。

(プレスリリース 1月21日付)

<https://www.bmwk.de/Redaktion/DE/Pressemitteilungen/2025/20250121-gemeinsame-politische-absichtserklaerung-entwicklung-des-suedlichen-wasserstoffkorridors.html>

スカニア、鋳造用の砂を建材に再利用

スウェーデンの商用車大手スカニアは15日、仏建材メーカーのヴェーバー・サンゴバンと提携し、エンジン部品の鋳造に使用した砂を建材に再利用すると発表した。スウェーデンにある両社の拠点間ですでに砂の供給を開始している。2025年に約2万トンの砂を供給する予定。両社は今回の提携により、有限な資源を効率的に利用し、廃棄物を最小限に抑える循環型ビジネスモデルを強化する。

スカニアは、鋳造工程で使用した砂を埋め立てる代わりに、ヴェーバー・サンゴバンがモルタル製造に使用する骨材として供給する。スウェーデンのセーデルテリエにあるスカニアの拠点から約150キロメートルの距離にあるヴィンゴーカーのヴェーバー・サンゴバンの拠点に毎日、満載のトラック3台が砂を供給する。環境負荷を低減するため、ストックホルムから戻ってくる荷台が空のトラックを活用して砂を輸送する。

ヴェーバー・サンゴバンは今回の提携により、新品の砂(バージン材料)の使用量を30%削減することができる。同社は2035年までに同社の製品に使用するバージン砂をすべて代替材料に置き換えることを目標としている。

(プレスリリース 1月15日付)

<https://www.scania.com/group/en/home/newsroom/press-releases/press-release-detail-page.html/4969673-sand-from-scania-becomes-mortar-at-weber-saint-gobain>

車載燃料電池のセルセントリック、量産工場用地を確保

欧州商用車大手のダイムラー・トラックとボルボ・グループが折半出資する燃料電池合弁会社セルセントリックは14日、西南ドイツのヴァイルハイムアン・デア・テックに量産工場用の用地を確保し

たと発表した。燃料電池トラックの需要見通しを読みにくいなど不確定要因が多いことを踏まえ、

オプション契約を締結。将来の市場条件に柔軟に対応できるようにした。現時点では2030年の量産開始を見込んでいる。

セルセントリックは21年に設立された。ダイムラー・トラックとボルボは当初、同合弁製の燃料電池を20年代後半からそれぞれ量産する大型トラックに搭載する考えだったが、水素補給網やグリーン水素供給網の整備、水素価格など製品投入の前提となる市場環境面で不確定要因が多いため、計画が遅れている。

燃料電池トラックの開発は順調に進んでいる。ダイムラー・トラックでは23年にプロトタイプ「GenH2トラック」の公道走行試験を実施。1回の燃料充填で1,000キロ超の走行を達成した。ボルボ・グループも同年、極地での公道走行試験を実施した。

(handelsblatt. 1月14日付)

<https://www.handelsblatt.com/unternehmen/industrie/daimler-und-volvo-brennstoffzellen-tochter-will-ab-etwa-2030-produzieren/100100619.html>

BMW、EV バッテリーリサイクルで SK Tes と提携—循環型経済を推進

BMWグループは、テクノロジーライフサイクルソリューションを展開するSK Tesと、電気自動車(EV)の高電圧バッテリーリサイクルに関するパートナーシップを結んだ。この取り組みでは、BMWのEVから取り出した使用済み高電圧バッテリーをリサイクルし、その原材料を新しいバッテリー製造に再利用することで、循環型経済の実現を目指している。

リサイクルプロセスは、使用済みバッテリーをSK Tesに供給することから始まり、バッテリーの機械的な粉碎、「黒い塊」の抽出、そしてこれをニッケル、リチウム、コバルトといった材料に変換するハイドロメタル処理(水銀精錬法)が含まれている。BMWは、これらの再生素材を新世代のバッテリー「GEN 6」に活用し、このバッテリーは2025年に新型EV「ニュークラス」でデビューする予定だ。

BMWは、このパートナーシップを通じて得られるリサイクル技術の知見を開発部門にフィードバックし、将来のバッテリー設計に反映することを目指している。これにより、バッテリーのリサイクルがより容易になり、長期的な持続可能性の向上が期待されている。BMWの高電圧バッテリー調達部門の責任者であるヨルク・レーダーバウアー氏は、今回の提携が循環型経済の効率向上に貢献するとコメントしている。

(electrive.net 1月13日付)

<https://www.electrive.net/2025/01/13/bmw-startet-batterie-recycling-projekt-in-europa/>

水素活用で高炉の CO2 削減、Thyssenkrupp が新技術を開発

ドイツの鉄鋼技術企業Thyssenkrupp AT.PRO tecは、水素を活用した高炉の新プロセスを開発中だ。この技術は既存の高炉での鉄鋼生産において、CO2排出量を最大20%削減できる可能性がある。プロジェクトは、SIP酸素注入技術を基盤にしており、欧州連合(EU)の石炭・鉄鋼研究基金(RFCS)から180万ユーロの支援を受けている。技術開発はThyssenkrupp Steel Europeと連携して進められている。

この取り組みには複数の企業が参加しており、Primetals Technologiesが高炉の統合計画と採算性評価を担当し、VDEh-Betriebsforschungsinstitut (BFI)がプロジェクト全体をコーディネート。さらに、オーストリアのVoestalpineがリンツ工場でヘリウムを用いた実用試験を行っている。

プロジェクトでは、まずヘリウムをテストガスとして用い、水素注入時の最適なプロセスを研究中だ。プロセス・シミュレーションやフロー・シミュレーションを活用し、高炉内でのガス分布を解析している。課題は、水素を高炉内で効率的に分布させ、鉄鉱石と反応させることだ。さらに、既存インフラを活用しながら、原料炭の一部を水素に置き換えることで、CO2排出量削減が可能になる。この技術は、完全水素稼働型の直接還元プラント導入に向けた中間ステップとしても期待されている。

(H2 News 1月13日付)

<https://h2-news.de/wirtschaft-unternehmen/umruestung-statt-neubau-eu-foerdert-hochofen-technologie-fuer-wasserstoff/>

ユニパー、英国でCO2分離併設の発電所建設を検討

エネルギー大手の独ユニパーは、英国ハンバー地方に新設するガスタービンコンバインドサイクル(CCGT)発電所に二酸化炭素(CO2)分離設備を併設する計画を検討している。同社は地元との調整を経たうえで、当局に計画承認を申請し、2030年までの完工を目指している。

ユニパーはハンバー地方ノース・キリングホルムにCCGT発電所の建設用地を確保し、既に建設許可を取得済みだ。同発電所の発電容量は最低でも470メガワット(MW)を見込んでいる。CO2分離設備を設置した場合、発生したCO2は輸送パイプラインを通じて洋上の最終貯留場へ送られる計画だ。

(プレスリリース 1月9日付)

<https://www.uniper.energy/united-kingdom/news/uniper-explores-development-of-a-new-carbon-capture-power-plant-in-the-uks-humber-region/>

インフィニオン、新ビジネスユニット「SURF」設立でセンサー・RF事業を強化

半導体大手の独インフィニオンは、センサーと無線周波数(RF)分野の事業を新たなビジネスユニット「SURF(センサー・ユニット&ラジオ・フリークエンシー)」に統合したと発表した。この統合はセンサー・RF市場の成長可能性を見据えたもので、コスト削減に加え、新製品開発や顧客ごとのソリューション提供でのシナジー効果を狙っている。

SURFを統括するトーマス・シャーフバウアー氏は、「新ビジネスユニットの設立により、グリーンエネルギー、クリーンでより安全なモビリティ、そしてインテリジェントで安全なモノのインターネット(IoT)などのトレンドが生み出す需要に対応していく」と述べた。今回の取り組みは、インフィニオンが注力する分野における競争力をさらに強化する狙いがある。

(プレスリリース 1月16日付)

<https://www.infineon.com/cms/en/about-infineon/press/press-releases/2025/INFPSS202501-040.html>

O2 Telefónica、独仏国境地域で5G通信回廊整備を推進

欧州通信大手O2 Telefónicaは、独仏コンソーシアムを通じて両国の国境地域に5G通信回廊を整備する「5G Autobahn to Autoroute (5G A2A)」プロジェクトを進めている。フランスとドイツを結ぶ初の国境越え5G高速道路回廊として、トランスヨーロッパ交通ネットワーク「ATLANTIC」に沿った約60kmのルートでギガビット速度を実現することを目指している。

このプロジェクトでは、通信塔企業TowerCoやモバイル通信事業者と連携し、ルート全体で高速ネットワークのカバレッジを確保。安全性向上や乗客体験の向上に繋がる接続型イノベーションを実現す

る。具体的には、協調型の車線変更、予測的な衝突回避、自動渋滞警告といった新機能の基盤を提供する。また、後部座席での映画ストリーミングなどの快適性も向上する。

ドイツ側では最大5基の通信塔を建設し、分散アンテナシステム(DAS)を活用。これにより走行中の通信塔間でのハンドオーバーを不要にする。O2 Telefónicaは3.6GHz帯の5G周波数を用い、高速道路区間で途切れのない高性能な5G接続を提供する計画だ。フランス側では8基の新通信塔の建設と、既存通信塔8基のアップグレードを進め、3.5GHz帯で専用5Gカバレッジを提供する。

プロジェクトには、O2 Telefónicaのほか、OrangeやVantage Towers、TOTEM、ザール地方工科経済大学(htw saar)などが参加している。

(プレスリリース :1月15日付)

<https://www.telefonica.de/news/corporate/2025/01/5g-autobahn-to-autoroute-erster-grenzueberschreitender-5g-autobahnkorridor-zwischen-frankreich-und-deutschland-ermoeslicht-innovative-fahrfunktionen.html?cat=pressemitteilungen>

ベルギー発 Vertical Compute、AI 技術革新へ 2,000 万ユーロを調達

ベルギーの世界的な半導体研究機関Imec (アイメック)からスピンオフしたスタートアップ企業 Vertical Computeが、AIコンピューティングのイノベーションを目指し、2,000万ユーロのシード資金調達を完了した。この資金調達はimec.xpandが主導し、Eurazeo、XAnge、Vector Gestion、Imecが参加した。同社はこの資金を活用し、データ転送を最小限に抑え、大量のデータを計算ユニットの近くに配置する垂直統合型メモリおよび計算技術の開発を進める。

大規模言語モデルや生成AIの進化により、クラウドインフラや高帯域幅メモリへの依存が課題となり、高レイテンシーやエネルギー消費が問題視されている。一方、エッジコンピューティングは解決策とされるが、スマートデバイス上でのAI推論には「メモリの壁」と呼ばれるSRAMやDRAMの限界が大きな障壁となっている。この問題について、同社のセバスチャン・クエットCTOは、同社のアプローチが100倍の性能向上を可能にし、AI推論の次世代への進化を支えると述べている。

Vertical Computeはベルギーのルーヴァン・ラ・ヌーヴに本社を置き、ルーヴェン、フランスのグルノーブル、ニースに研究開発拠点を展開している。

(elektroniknet.de 1月14日付)

<https://www.elektroniknet.de/halbleiter/imec-spin-off-sichert-sich-20-mio-euro-fuer-ki-innovation.222788.html>

ステランティスと dSpace が提携一車両ソフト開発を加速

欧州自動車大手のステランティス(Stellantis)は、ドイツの車載ソフトウェア企業dSpaceと提携し、クラウドベースの車両開発を強化する。ステランティスのバーチャルエンジニアリングワークベンチ(VEW)に、dSpaceのVEOSプラットフォームを統合することで、開発初期段階からソフトウェアの洗練化を図る考えだ。

VEWを活用することで、エンジニアはハードウェアの利用が可能になる1年前から仮想環境で開発、統合、テスト、最適化を行うことが可能になる。テストの80〜85%はソフトウェアインザループ(SiL)プラットフォームで実施され、これにより新しい車両ソフトウェアを2年未満で市場に投入できるようになる。これにより市場投入までの時間を短縮し、製品の品質向上も実現できる。

ステランティスのソフトウェア戦略は「STLA Brain」、「STLA SmartCockpit」、「STLA AutoDrive」の3つのAI対応技術プラットフォームを基盤とし、今年から一部車両で初公開される予定だ。これらのプラットフォームはVEWで開発され、同社14ブランドへの迅速な機能提供を保証するほか、開発サイクルを従来比で最大100倍に加速する。

ステランティスのチーフソフトウェアオフィサーであるイヴ・ボンフォン氏は、dSpaceツールの統合により革新的な機能を迅速に提供し、顧客体験と運転の質を向上させると述べた。この提携は、インテリジェントなコネクテッドカー実現やOTAアップデートを通じた顧客満足度向上に寄与する。

(Next Mobility 1月14日付)

<https://www.next-mobility.de/stellantis-und-dspace-beschleunigen-cloud-basierte-entwicklung-von-fahrzeugen-a-c236774f0266c80ca05807741cd264e6/>

豪ベクション・テクノロジーズ、ブルガリア企業と提携。欧州市場進出へ

産業向けにバーチャルリアリティ (VR) や拡張現実 (AR) を含むクロスリアリティ (XR) 技術を展開する豪ベクション・テクノロジーズは、ブルガリアのシナジー・シミュレーション・アンド・トレーニングと販売代理店契約を結んだと発表した。この提携を通じて、ベクションはブルガリアを拠点に欧州市場へ本格的に進出する。2027年までに同国で約60万米ドルの売上高を目指すとしている。

シナジーはXRや3Dモデリングを活用したシミュレーションおよびトレーニング製品を産業界や官公庁に提供しており、防衛関連ソリューションで高い実績を持つ。同社の製品はブルガリア経済省の「防衛産業カタログ」にも掲載されている。

ベクションは声明で、「シナジーとの販売契約は欧州進出に向けた重要な一歩となる。今後は他地域でもXR技術を積極的に展開する」と述べた。また、今後オランダやスペインでも提携先を模索していく方針を明らかにしている。

(grafa 1月13日付)

<https://grafa.com/news/technology-vection-technologies-secures-european-growth-with-synergy-distribution-deal-347457>

ステランティスなど出資の電池合弁、独伊工場計画が暗礁に

欧州自動車大手ステランティスとメルセデス・ベンツ、仏エネルギー大手トタルエナジーズの子会社サフトが出資する電池合弁会社「オートモティブ・セル・カンパニー (ACC)」のドイツとイタリアにおける工場建設計画が難航している。トタルエナジーズのパトリック・プヤンヌCEOは5日、記者団との会談で「3つの工場ではなく、1つに集中すべきだ」との考えを示し、当面はフランス・ビリーベルクロー工場に経営資源を集中すべきだと述べた。

ACCは、欧州の電動車市場拡大を見据え、2020年にステランティスの前身企業PSAとサフトによって設立され、21年にメルセデスが資本参加した。現在の出資比率は、ステランティスが45%、メルセデスが30%、サフトが25%となっている。当初の計画では、仏ビリーベルクロー、独カイザースラウターン、伊テルモリの3カ所にギガファクトリーを建設する予定だった。しかし、欧州の電動車市場の減速に伴い、電池需要が低迷。ACCは昨年6月、カイザースラウターンとテルモリの計画を凍結した。

ビリーベルクロー工場は23年5月に第1ブロックが完成し、操業を開始したものの、24年末までの生産量は自動車2,000～3,000台分にとどまる。プヤンヌ氏は、ステランティスやメルセデスと、電池メーカーであ

るサフトの戦略が異なることを指摘。そのうえで、ビリーベルクロー工場が十分に機能していない現状で新たな工場を建設するのはリスクが大きいとして、独伊でのプロジェクトに否定的な立場を示した。

(faz.net 2月5日付)

<https://www.faz.net/aktuell/wirtschaft/unternehmen/batterien-von-acc-total-geht-auf-distanz-zu-kaiserslautern-110277988.html>

リオ・ティントとハイドロ、アルミ製錬の炭素回収技術を共同開発

リオ・ティント(本社：ロンドン)とハイドロ(本社：オスロ)は、アルミニウム電解精錬プロセスにおける炭素回収技術の開発を目的とした共同研究を開始した。両社は提携契約を締結し、研究開発(R&D)活動に関する情報や成果、コストを共有する。実験室レベルの試験から現場での大規模実証試験までを視野に入れ、商業化可能な技術の開発を加速させる。この取り組みに対し、両社は今後5年間で約4,500万ドルを投資する計画で、リオ・ティントの欧州拠点とハイドロのノルウェー拠点で研究を進める。

アルミニウム電解精錬では、陽極消費によるCO₂排出が製錬所の直接排出量の約75%を占める。製造過程での炭素排出削減は、アルミニウムを原材料とする産業全体にとって重要な課題で、特に粉末冶金(PM)や金属3Dプリント(AM)向けアルミニウム粉末市場にも影響を及ぼす可能性がある。カーボンフリーの原材料を求める動きが強まれば、低炭素・カーボンフリーのアルミニウム粉末に新たな市場価値が生まれると考えられる。

リオ・ティントとハイドロは、それぞれカーボンフリーのアルミニウム製造技術を開発しており、ハイドロは「HalZero」技術、リオ・ティントはELYSIS合弁事業を通じて脱炭素化を進めている。

ハイドロのエイヴィンド・カルレヴィックCEOは「ハイドロは2050年までにネットゼロ・アルミニウム生産を達成するロードマップを加速している。既存の製錬所の脱炭素化に向け、炭素回収技術は重要な役割を果たす」と述べた。

アルミニウム製錬の排ガス中のCO₂濃度は約1%と低く、炭素回収技術の適用には課題が多い。しかし、技術の成熟が進めば、アルミニウム粉末市場でも持続可能な材料の需要拡大が期待される。リオ・ティントとハイドロの協力により、脱炭素技術の革新が加速する可能性がある。

(pm-review 2月4日付)

<https://www.pm-review.com/rio-tinto-and-hydro-launch-45m-partnership-to-develop-carbon-capture-in-aluminium-smelting/>

エボニック、オランダ・ボルト H2 とグリーン水素供給で基本合意

ドイツの化学大手エボニックは30日、オランダのエネルギー企業ボルト H2 からグリーン水素の供給を受けることで基本合意したと発表した。自社の生産活動における二酸化炭素(CO₂)排出量を削減する狙いがある。

ボルト H2 は、オランダ北東部デルフゼイル化学工業団地にあるエボニックの過酸化水素工場にグリーン水素を供給する。近隣に50メガワット(MW)級の電解槽を設置し、2027年末から稼働を開始する予定だ。

エボニックは、この電解槽で製造されるグリーン水素の大半を引き受ける方針で、将来的には同工場で使用する水素をすべてグリーン水素に切り替える計画を進めている。

また、ボルトH2は同工場内に水素チューブトレイラー向けの補給設備を設置し、エボニック以外の顧客にもグリーン水素を供給することを計画している。

(プレスリリース 1月30日付)

<https://www.evonik.com/de/news/press-releases/2025/01/evonik-und-volth2-schliessen-langfristige-partnerschaft-fuer-grue.html>

スロベニアの新原子炉計画、韓国 KHNP が撤退—米仏 2 社の競争に

スロベニア国営電力(GEN-Energija)は1月30日、クルシュコ原子力発電所(NEK)の新原子炉建設計画から韓国水力原子力発電(KHNP)が撤退したと発表した。これにより、米ウェスチングハウスと仏電力公社(EDF)の2社が競争を繰り広げることになる。

ウェスチングハウスは同日、GENから委託された実現可能性調査(TFS)を韓国の現代建設と共同で実施すると発表した。同社は加圧水型原子炉「AP1000」の採用を目指し、一方のEDFは欧州加圧水型炉(EPR)の「EPR1200」または「EPR1650」を提案している。

GENのデヤン・パラヴァン最高経営責任者(CEO)によると、KHNPの撤退後も2社間の競争は十分であり、建設コストの見積もりは93億~154億ユーロで変更はない。新原子炉は2040年までの完成を予定している。

クルシュコ原発はGENとクロアチアの電力会社HEPが共同運営し、ウェスチングハウスが1983年の稼働開始以来、運用と燃料供給を担当している。GENはこの原子炉の増設と並行し、2050年までに約250メガワット(MW)の小型モジュール式原子炉(SMR)の導入も検討している。

(nucnet 1月31日付)

<https://www.nucnet.org/news/edf-and-westinghouse-to-carry-out-feasibility-studies-on-slovenia-s-plans-for-new-nuclear-1-5-2025>

トヨタ、仏 2 社と水素補給システムを共同開発 欧州普及を加速

トヨタ自動車は28日、新しい水素補給システムの開発でフランス企業2社と協業すると発表した。迅速な水素補給と設置コストの低減を実現する技術を実用化し、欧州での水素補給インフラ整備を促進。燃料電池車(FCV)の普及を後押しする。

トヨタは「ツイン・ミッド・フロー」という技術を、水素補給ステーション開発の仏ハイドロジェン・リフューエリング・ソリューションズ(HRS)と仏エネルギー大手エンジーと共同開発する。トヨタはこの技術を搭載したトラックと検査台を提供し、HRSとエンジーは互換性のある水素補給機を開発する。

ツイン・ミッド・フローは補給速度の速さが特徴で、40トントラックの場合、8分で600キロ、12分で900キロの走行が可能となる。大型トラックから小型商用車まで利用できるため、補給ステーションの運営事業者は多様なスタンドを用意する必要がなくなり、コストを大幅に削減できる。

この協業は、大型トラック向け急速水素補給機の開発を目指す「RHeaDHy」プロジェクトの一環として実施され、欧州連合(EU)の補助金を受けている。今年第4四半期からテストを開始する予定だ。

EUは2030年までに、欧州の幹線道路沿いに200キロ間隔で水素補給ステーションを設置する目標を掲げている。

(elektroniknet. 1月29日付)

<https://www.elektroniknet.de/automotive/elektromobilitaet/toyota-arbeitet-an-besserer-wasserstoffinfrastruktur.223118.html>

Heraeus と Jolt、PEM 電解槽のコスト削減で提携 貴金属使用を最適化

ドイツ・ハーナウの冶金企業Heraeus Precious Metalsは、西スタートアップ企業Jolt Solutionと提携し、プロトン交換膜(PEM)電解槽を用いたグリーン水素のコスト削減に取り組む。Joltが開発した「Sparkfuze技術」を活用し、高価な貴金属の使用効率を高めるとともに、電解槽の生産拡大を加速させる狙いだ。

Sparkfuzeは発熱反応を利用して触媒活性を持つ貴金属を金属基材に直接浸透させる技術で、従来法と比べてエネルギー消費が大幅に少なく、スケールアップも容易。高い触媒活性と長期的な安定性を備えた電極を生成できる。Joltは、主にアルカリ性電解槽やアニオン交換膜(AEM)電解槽向けの触媒コーティング済みニッケル基板(電極)を製造し、年間生産能力は10万平方メートルに達する。

Heraeusの水素システム事業部門エグゼクティブ・バイスプレジデント、フィリップ・ウォルター氏は「Joltとの協力により、PGM（白金族金属）アプリケーションにおける当社のノウハウを完璧に補完できる」とコメントしている。

PEM電解槽は再生可能エネルギーとの親和性が高いものの、触媒層に希少なイリジウムや白金を使用するため、コストが課題となっている。ドイツでは約7GW（ギガワット）の水素プロジェクトが計画されており、多くがPEM技術を採用。2030年までに世界で375GWの電解槽容量が予測されており、その30%が実現可能とされている。触媒層のコスト削減が鍵となる中、企業や研究機関は貴金属の効率的な活用を進めている。

(H2 News 1月27日付)

<https://h2-news.de/wirtschaft-unternehmen/neue-partnerschaft-effizientere-edelmetallnutzung-in-pem-elektrolyseuren/>

韓国 Hyundai、セルビアで1GWの太陽光発電プロジェクトを開始

韓国のHyundai Engineeringは、米UGT Renewables (UGTR)と共同で、セルビアに総容量1ギガワット(GW)の太陽光発電所を設置する。今年末から来年初頭にかけて建設作業を開始し、欧州最大級の再生可能エネルギープロジェクトとなる見通しだ。専門誌『Balkan Green Energy News』が24日に報じた。

HyundaiとUGTRは、セルビア国内6カ所に自己バランス型太陽光発電所を建設し、国営電力会社EPSに引き渡す計画だ。このシステムはソフトウェア制御により発電量を最適化し、全体のピーク容量は1.2GWに達する。また、電力供給の安定化を目的に、容量400メガワット時(MWh)のバッテリー貯蔵システムも併設し、2028年までの完工を目指す。

セルビアのジェドビッチ鉱業・エネルギー相は、「このプロジェクトによりEPSは最大の再生可能エネルギー生産能力を獲得し、クリーンエネルギーの安定供給が可能になる。最新のバッテリー貯蔵システムにより、電力システムの調整能力も向上する」とコメントしている。

(Balkan Green Energy News 1月24日付)

<https://balkangreenenergynews.com/construction-of-1-gw-solar-power-project-in-serbia-to-start-by-early-2026/>

ドレスデン工科大学、量子エッジコンピューティング研究所を開設 6G 時代に向け実証へ

ドイツのドレスデン工科大学は、連邦教育研究省(BMBF)の資金援助を受け、ハイブリッド・エッジ・アプリケーション向けの量子コンピューター研究所「Quarks-Labor」を開設した。将来の6G時代におけるエッジコンピューティングの量子優位性を実証するため、相互接続された3台の量子コンピューターが設置されている。

この研究所は、ミュンヘン工科大学と、ダイヤモンド窒素－空孔(NV)センターベース(diamond nitrogen-vacancy (NV) center-based)の量子コンピューターを開発するスタートアップXeedQとの協力で設立された。6Gネットワークにおける量子コンピューティングの必要性を研究・テストする場として機能し、技術革新や産業発展への寄与を目的としている。ドイツ国内では唯一で、世界的にも数少ない研究施設だ。

エッジコンピューティングとは、無線アクセスネットワークの近くでデータ処理を行い、応答時間の短縮やシステムの回復力向上を図る技術だ。量子コンピューティングと従来型コンピューティングの相互作用が、この分野の重要なソリューションになる可能性があると期待されている。

(computer & automation 2月3日付)

<https://www.computer-automation.de/vernetzung/tu-dresden-6g-weitergedacht.htm>

T-Systems、仏アルザス地方で衛星基盤のトラック通行料金システムを受注

ドイツのT-Systems子会社T-Systems Road User Servicesは、フランス・グルノーブルの電子システム企業Grenobloise d'Electronique et d'Automatismes (GEA)と共同で、フランス・アルザス地方の南北軸における衛星基盤のトラック通行料金システムの設置・運用を受注した。

このシステムでは、トラック運転手は既存の欧州電子通行料金サービス(EETS)対応オンボードユニット(OBU)を使用して通行料金を支払う。EETSプロバイダーの標準技術とシームレスに統合できるため、トラックは停車せずに走行を続けることができる。

また、参照地図の柔軟なアーキテクチャにより、トンネルや特定地域、新たな有料道路エリアなどをデジタルで容易に追加できる。T-Systemsの料金プラットフォームは、他システムとの統合を可能にする多用途APIインターフェースを備えており、個別のモジュールは有料道路サービスプロバイダーやサードパーティの業務プロセスに容易に統合できる。

両社は、システム運営のために仏ストラスブールに合弁会社「R-PASS Opérateur」を設立した。出資比率は、T-Systems Road User Servicesが85%、GEAが15%。

(プレスリリース 2月3日付)

<https://www.telekom.com/de/medien/medieninformationen/detail/t-systems-baut-maut-system-im-elsass-1086920>

nista.io、シュナイダーエレクトリックと提携 AI 活用で産業エネルギー管理を最適化

オーストリアのウィーン工科大学発のソフトウェア・スタートアップnista.ioは、フランスの電機大手シュナイダーエレクトリック (Schneider Electric) と戦略的パートナーシップを締結した。nista.ioはAIとセンサーデータを活用し、企業のエネルギー消費を分析・最適化するデータ分析ソフトウェアを開発しており、2020年の設立以来、エネルギーデータを実行可能なタスクに変換することを目指してきた。

今回の提携では、シュナイダーエレクトリックのハードウェアおよび監視ソリューションと、nista.ioのAI技術を統合し、産業企業のエネルギー効率と持続可能性向上の新たな基準を確立する方針を示している。

この複合ソリューションは、オーストリアを中心としたDACH地域(ドイツ・オーストリア・スイス)の顧客企業向けに販売され、将来は他市場への展開も視野に入れている。エネルギーコストを最大20%削減し、企業のコスト効率向上と規制要件の遵守を支援することが目的だ。

nista.ioは、データとAIを活用した継続的な省エネルギー、柔軟な消費、透明性の高いエネルギー管理を実現すると強調している。両社は、エネルギー管理の専門化とデジタル化を推進する意向で、すでに最初の顧客から好意的なフィードバックを得ているという。

(brutkasten 1月29日付)

<https://brutkasten.com/artikel/software-startup-nista-io-geht-partnerschaft-mit-franzoesischem-milliardenkonzern-ein>

Rockwell Automation、プラハに新研究所を開設 自律型システムの研究強化へ

米Rockwell Automationは、同社のアドバンステクノロジーチームを強化するため、チェコ・プラハに新たな研究所を開設した。世界最大規模の産業オートメーションおよびデジタルトランスフォーメーション企業である同社は、新研究所を通じて顧客ニーズの評価や自社製品の市場機会検証を行い、製品開発や知的財産の拡充に活かす狙いだ。

この研究所は、Rockwell Automationプラハの既存施設の研究・技術能力を拡大する役割を担う。プラハを選定した理由について同社は、自律型インテリジェントシステムに取り組む地域との関係を深めるためと説明。今後、地域の大学との連携も進めていく。

アドバンステクノロジー部門のディレクターであるカイル・クラム氏は、「プラハは研究に理想的な場所だ。既存の地域ネットワークを活かしながら、自律型インテリジェントシステムを専門とする大学との協力関係を強化したい」と述べた。

同チームは、新製品やサービスの開発支援に加え、産業オートメーション全体の発展を推進する役割も担う。アイデアリーダーシップ(技術革新の先導役)を発揮し、標準化団体や学術コミュニティとの協力を深めることで、業界全体の進化を後押しする考えだ。

Rockwell Automationは、製造業やプロセス業界向けに技術・ソフトウェアを活用したソリューションを提供しており、ウィスコンシン州のミルウォーキーに本社を構える。従業員は約2

7,000人、100カ国以上で事業を展開している。

(Automobil Industrie 1月27日付)

<https://www.automobil-industrie.vogel.de/rockwell-automation-eroeffnet-neues-forschungslabor-in-prag-a-df052a7611c5de987bc3ed5e6692649f/>

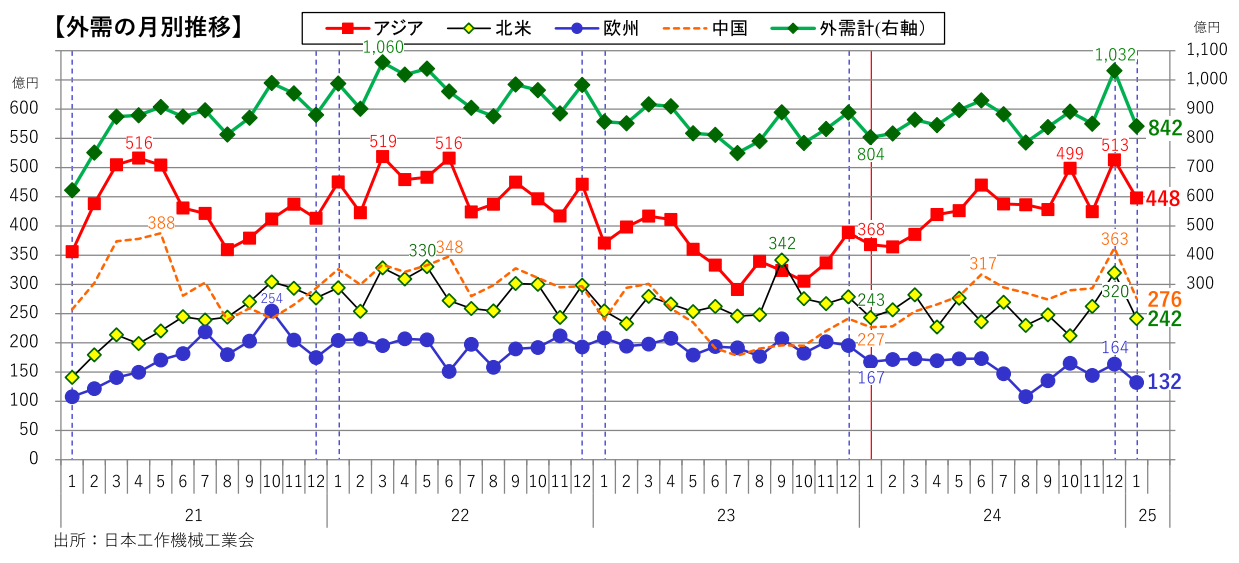
6. 日工会外需状況（1月）

外需【1月分】

841.5億円（前月比 △18.4% 前年同月比 +4.7%）

外需総額

- ・ 2カ月ぶりの850億円割れ
- ・ 前月比 2カ月ぶり減少 前年同月比 4カ月連続増加
- ・ 季節要因で前月の反動減が見られたが、状況に大きな変化は見られず



外需【1月分】

主要3極別受注

①アジア

アジア計は、2カ月ぶりの450億円割れも、10カ月連続の400億円超と堅調持続

- 東アジアは、2カ月ぶりの320億円割れ
- 中国は、主要業種が概ね2割超の前月比減少で、4カ月ぶりの280億円割れ
- その他アジアは、インドの大型受注の継続等で、3カ月ぶりの130億円超
- ベトナム(17.4億円)は、6カ月ぶりの20億円割れ
- インドは、電気機械での大型受注により、3カ月ぶりの80億円超で過去2番目の高水準

②欧州

欧州計は、ドイツ、スイス、東欧以外の国・地域で前月比減少し、4カ月ぶりの140億円割れ

- ドイツは、4カ月ぶりの30億円超
- イタリアは、4カ月連続の20億円割れ
- EU(94.2億円)は、5カ月ぶりの100億円割れ
- トルコ(9.8億円)は、20カ月ぶりの10億円割れ

③北米

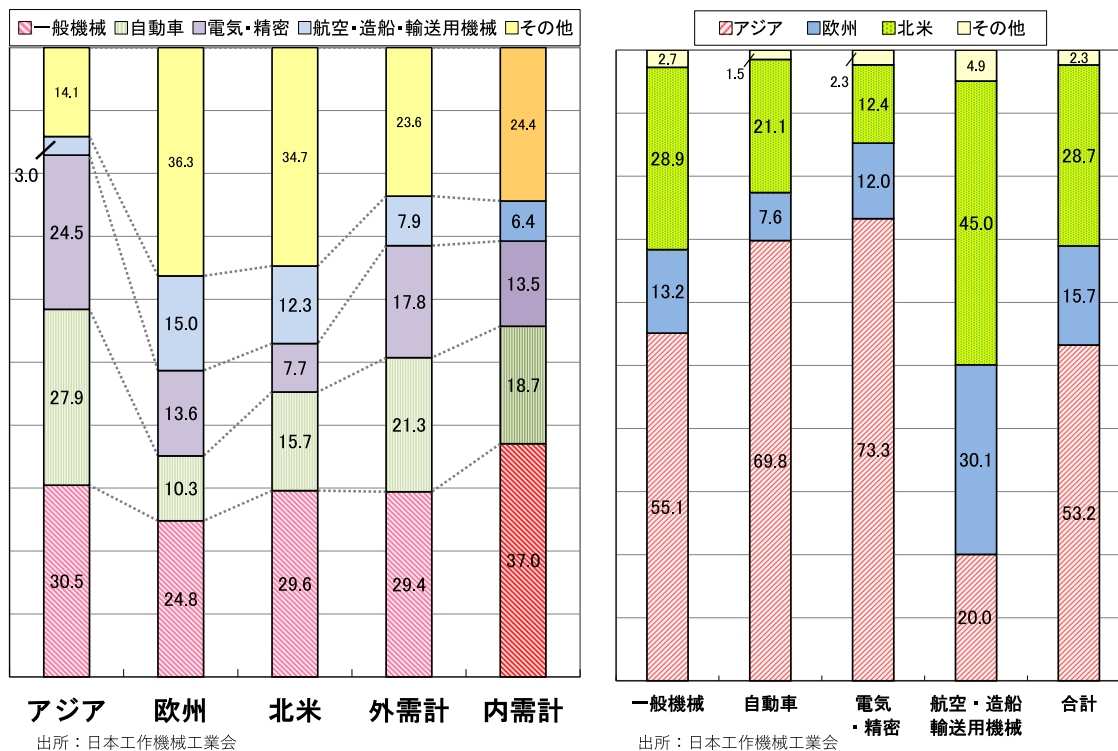
北米計は、3カ月ぶりの250億円割れ

- アメリカは、航空機の大型受注の反動減もあって、3カ月ぶりの210億円割れ
- メキシコは、5カ月ぶりの15億円超

国・地域	受注額 (億円)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
アジア	448.0	△12.7 2カ月ぶり減少	+21.7 10カ月連続増加
東アジア	315.6	△21.7 2カ月ぶり減少	+17.6 10カ月連続増加
韓国	26.3	+9.4 2カ月連続増加	+6.4 2カ月連続増加
中国	276.0	△23.9 4カ月ぶり減少	+21.7 10カ月連続増加
その他アジア	132.4	+20.2 2カ月連続増加	+32.6 2カ月ぶり増加
インド	83.9	+65.8 3カ月ぶり増加	+98.1 2カ月ぶり増加
欧州	132.2	△19.2 2カ月ぶり減少	△21.0 13カ月連続減少
ドイツ	30.4	+4.7 3カ月連続増加	△17.0 14カ月連続減少
イタリア	15.1	△23.1 2カ月ぶり減少	△39.2 16カ月連続減少
北米	241.6	△24.5 3カ月ぶり減少	△0.7 2カ月ぶり減少
アメリカ	207.7	△28.2 3カ月ぶり減少	△1.3 3カ月ぶり減少
メキシコ	15.5	+12.9 2カ月連続増加	+1.7 5カ月ぶり増加

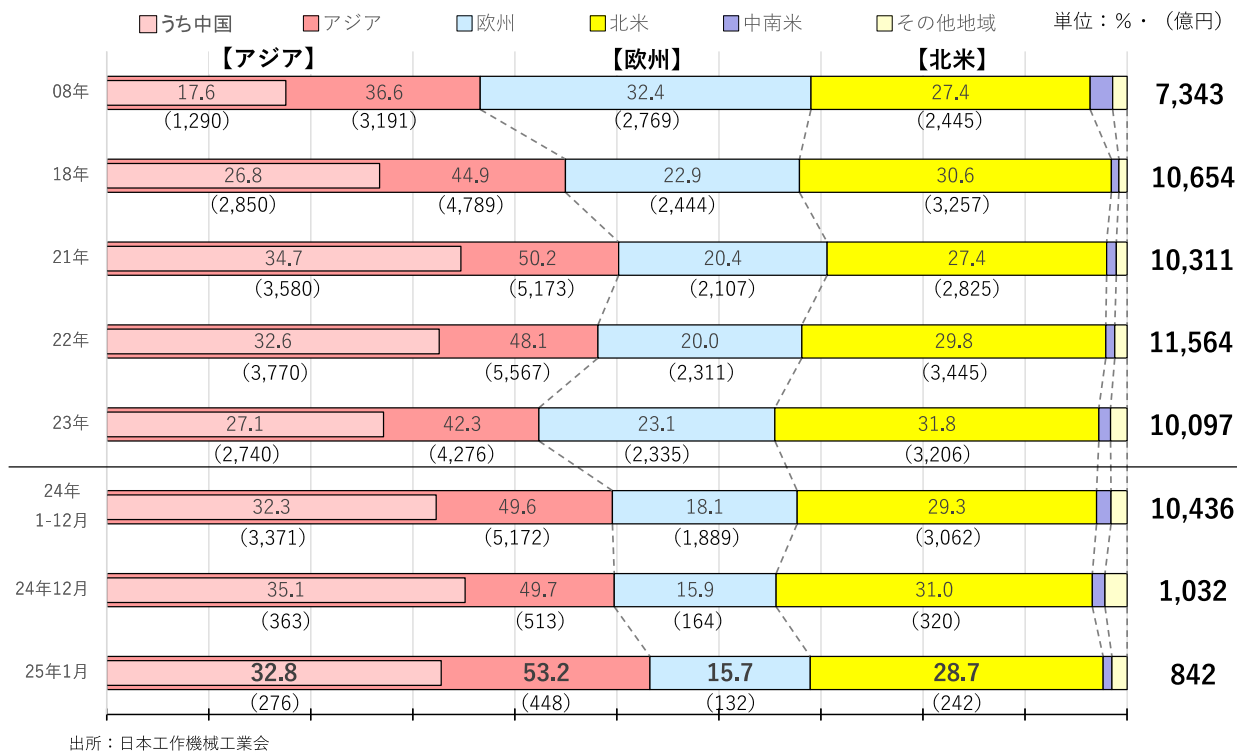
外需【1月分】

主要3極別・業種別受注構成



外需 地域別構成の推移

1月は、アジアの比率が3カ月ぶりに50%を上回り、北米の比率が3カ月ぶりに30%を下回る





米国商務省主催
**SELECTUSA
INVESTMENT SUMMIT**



2025年5月11日（日）～ 5月14日（水）

メリーランド州（ワシントンDC近郊）

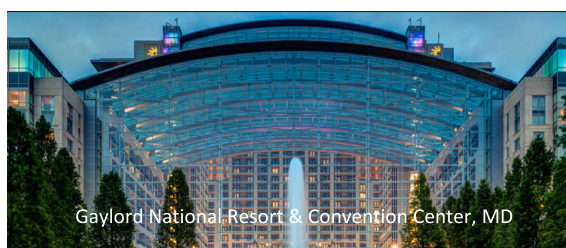
ゲイロード・ナショナルリゾート&コンベンションセンター

SelectUSA投資サミットは、米国に進出または事業拡大を検討している企業に実践的な情報を提供し、州政府・地方自治体・経済開発局(EDO)や、サービスプロバイダーとのネットワーキングを通じて投資の決断を促進することを目的としています。

参加者募集中

参加費・プログラムの詳細等、随時更新
[公式サイト](https://www.selectusasummit.us)にてご確認ください。

www.selectusasummit.us



Gaylord National Resort & Convention Center, MD

業種や規模を問わずJapan Delegationの参加者を募集しています。スタートアップ企業も大歓迎です。
初めての参加者には\$100の割引特典あり。
(SelectUSA Tech、外国政府関係者を除く)
お申込み時期や条件を満たすスタートアップ企業に
ディスカウントあり。(一般参加費:\$1,350)

サミットの構成

❖ [基調講演\(Agenda\)](#)

政府要人や企業幹部によるパネルディスカッション。
2025年は新政権の主要政策の方向性

❖ [アカデミー・分科会 \(Agenda\)](#)

対米投資に関する実践的なセッション（セミナー方式）
2024年のプログラム（一例）
“How to Structure Your Business in the U.S.”
“Expanding Your Presence in the U.S.”
“Site Selection” “U.S. Expansion & Fundraising”
“Navigating the U.S. Medical Device Regulatory Framework - U.S. FDA”

❖ [展示ホール \(Exhibition Hall\)](#)

各州政府、EDO、サービスプロバイダー、業界団体等が出展

❖ [マッチメイキング \(Networking\)](#)

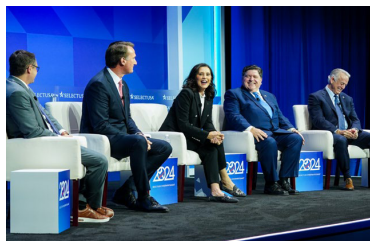
システムを使って州政府や企業との個別面談が設定可能

❖ [スピンオフ視察\(Spinoff\)](#)

サミットの前後に特定の地域への視察

❖ [SelectUSA Tech](#)
[Select Global Women in Tech](#)

条件を満たすスタートアップ向けのプログラム



米国商務省主催 SelectUSA Investment Summit

2024年の開催報告

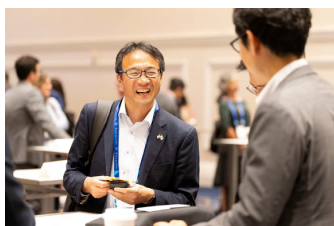


参加した企業の主な産業



- 96か国から5000名以上が参加
- 参加人数上位国は、インド、韓国、台湾、中国、日本、インドネシア、英国、トルコ、サウジアラビア、ベトナム
- 主なスピーカー：商務長官を始め、国務省、労働省、運輸省、エネルギー省、防衛省長官や11の州知事が登壇。省庁間が連携してFDA、商用ビザ、CHIPSやIRAのセッションあり。日本を代表してキューピー株式会社とPanasonicアメリカが登壇。
- JETROのアメリカ事務所（6拠点）が参加、SelectUSAと協働で日本企業の米国進出を支援

参加した日本企業の声



- 4日間で各政府、進出支援コンサルタント、弁護士、会計士、参加企業と約30の個別商談ができました。サミットでご紹介いただいた弁護士事務所に登記の依頼をし、秋には米国に会社設立予定。
- 自分が1年以上かけて収集した米国進出に関する情報がこのサミットの1つのセッションでほぼ網羅された。弊社は特にFDAの登壇者と名刺交換をし、今もやり取りしていることは大きな収穫。
- 将来的な活動拠点のベストな選択を行うため、各州の投資状況、サプライチェーン、インセンティブなどの情報収集ができた。帰国後も連絡を取り情報を精査している。またSelectUSAからもサポートを受けている。
- SelectUSA投資サミットには過去7回にわたり参加。全米50州の州政府関係者及び連邦政府関係者と一度に対話することができる非常に貴重なイベントで商務省関係者からのサポートも心強く今後も引き続き活用させて頂きたい。

SelectUSAとは？

海外から米国への直接投資（FDI）を促進するための米国連邦政府による対米投資プログラムです。

SelectUSAは米国で会社設立・事業拡大を考えている企業の皆様にとって連邦政府の単一窓口としてサポートいたします。

企業の大きさに関わらず個別に対応させていただき、必要なデータや情報の提供、該当する連邦プログラムの特定、連邦規制を理解するお手伝い、及びパートナーのご紹介をします。



米国進出・事業拡大・サミットに関するお問い合わせ先

米国大使館・総領事館商務部 SelectUSA

SelectUSAJapan@trade.gov www.trade.gov/selectusa

